

SAFARI CAR



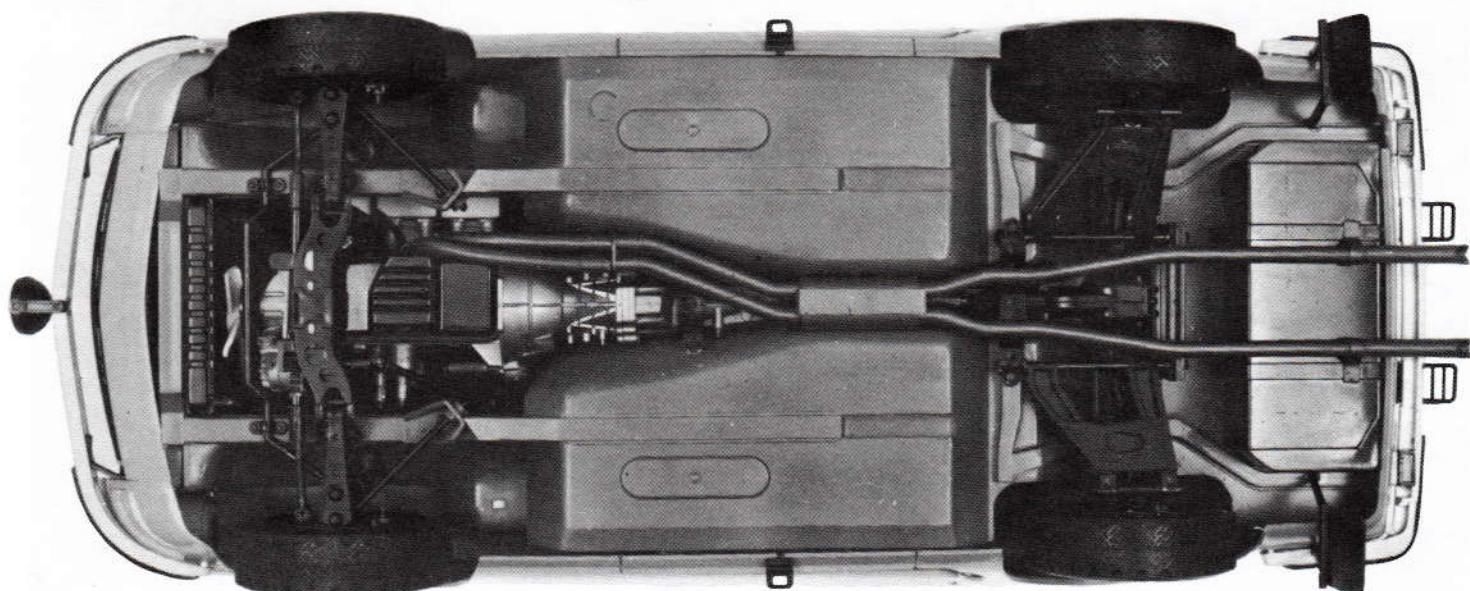
DAT SUN 240Z

1:12 IDENTICAL SCALE

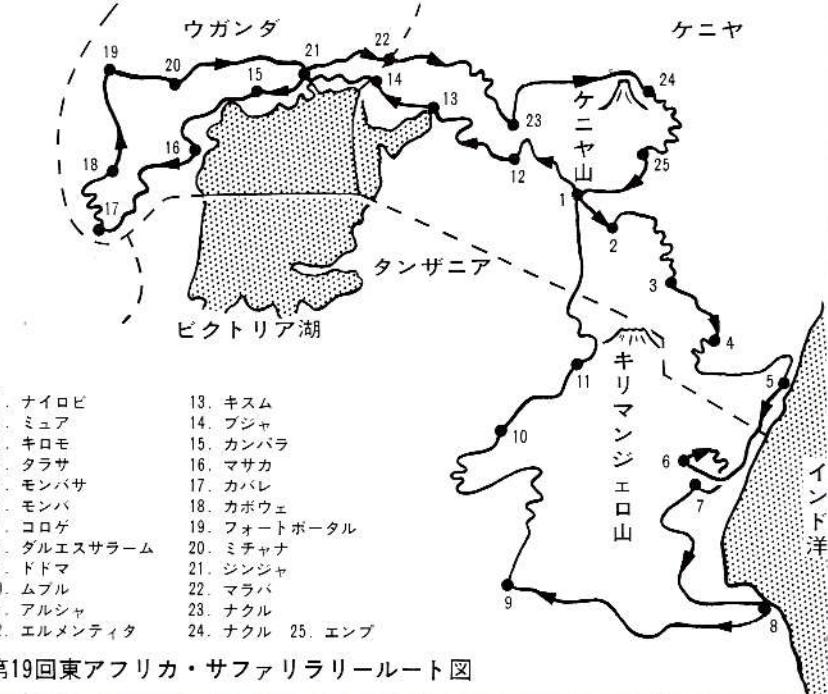
Length 365mm
Width 143mm
Height 104mm

- SUPER DETAILED NISSAN SOHC STRAIGHT-SIX ENGINE
- OPENABLE BONNET, REAR GATE AND DOORS
- MOVABLE FRONT AND REAR SUSPENSION
- REALISTIC FIGURES OF DRIVER AND NAVIGATOR

BIG SCALE 8★ TAMIYA
TAMIYA, INC.
3-7, ODAWARA, SHIZUOKA-CITY, JAPAN.



DATSON 240Z



第19回東アフリカ・サファリラリールート図

ラリーの始まり

モータリゼーションの発達に伴い、自動車がステータスシンボルや財産であるという見方は次第に失なわれはじめ。日常の足、レジャーの道具という考え方の大勢を占めるようになってきた。従って、現在ではモータースポーツとして自動車を利用することも、ごく自然に受け入れられるようになってきている。そのモータースポーツの中でも、最も入りやすく、誰にでも手軽に楽しめるのがラリーであると言える。

ラリーとは英語の「RALLY」すなわち再び集まるという意味の言葉である。スタート地点を出発した車が、野越え、山越え町を通り抜けて指定されたゴールに到着し、再び顔を合わせるという意味から出発している。中世のヨーロッパでは、領主や王侯が自分の領地内の各所に騎士を配置しておき、いざという時に備えて時々招集をかけて、どのくらい早く自分のもとへ集まってくれるかを試していた。このような背景と歴史の中で、ヨーロッパ諸国のお上流階級が観光地として名高いモンテカルロに愛車に乗って集まってきたは、今年はドイツからアルプス越えて何日で来たとか、スペインから海岸線経由で何日だったとか、自慢話に花を咲かせたことは容易に想像できるだろう。しかし話だけでは事実かどうか、はっきりしない。はっきりした証明のために競技として勝敗をつけようということになるのは自然の成行であった。このようにして始まったのがモンテカルロラリーで、1911年の冬に始まった世界でも最も歴史のあるラリーであり、現在も世界最大のラリーの1つに数えられている。このモンテカルロラリーに刺激されて各地でいろいろなラリーが盛んになっていたのである。

日本では、15~16年前からラリーが開催されるようになり、最も古い歴史を持つのが北アルプスを中心に中部山岳地帯を舞台に行なわれる日本アルペンラリーである。この日本アルペンラリーを筆頭に、今ではほとんど毎週といつていいほど全国各地でラリーが行なわれ、参加の数も多く、非常な人気を集めている。もちろん、ヨーロッパで行なわれているラリーと日本で行なわれているものとは若干の違いがある。日本のラリーの主体はリライアビリティランといって、与えられた指示速度をいかに正確に守って走行するかを競い合

う。コース上の数地点に、出場者には知られていないチェックポイントを置き、その通過時刻をチェックして、チェックカードを交付し、ゴール地点で各チェックポイント間の参加者の走行に要した時間と、指示速度で走行した場合の所要時間を比較し、その遅速によって減点される。この減点の少ないものが良い成績になるので、当然、早すぎてもいけないことがある。このあたりがヨーロッパのラリーでは遅れた場合のみ減点されるのと違うところである。

もちろんラリーにも多くの種類がある。家族ぐるみで楽しめる気楽なものから、山岳路をハイスピードで飛ばさなくてはならないようなハードなものまで千差万別である。それらを選択することによって、各人の技術に応じいろいろな層の人が参加できるラリーは、最も手軽なモータースポーツと言えるだろう。イースト・アフリカン・サファリ・ラリー・サファリラリーは、1953年、エリザベス女王の戴冠式を記念して設けられた。毎年、イースター祭の休暇に行なわれ、東アフリカのケニア、ウガンダ、タンザニアの3ヶ国にまたがる全行程約6,000kmを4日間で走破するという非常に苛酷なものである。毎回、世界各地から100台前後の参加があるが、時によっては数台の完走しかなかったこともある。複雑に変化する地形、天候により、サファリでは現地ドライバー以外は絶対に勝てないというジンクスがあった。これは1972年の第20回目で、フォード・エスコートに乗るミッコ・ラーム組が打ち破るまで続いたのである。また、このサファリラリーは、国際ラリーチャンピオンシップのかかったラリーのうち、ヨーロッパ以外で行なわれる唯一のものであり、モンテカルロラリーとは別な意味での苛酷さを持つことによって常に比較される。すなわち、モンテカルロラリーは、雪と氷のアルプスを中心として行なわれるもので、速度はあまり高くないが、ヒルクライム、ヒルダウン、コーナーリング等は非常にシビアさを持つものである。これに対しサファリラリーは、悪路での高速耐久ラリーで、時には時速200km以上で連続走行する場合も出てくる。また雨期に行なわれるために天候が急変し、雨のために今まで道であったものが川となつて走行不能となったり、泥の中にはまり込

で悪戦苦闘の連続となることも少なくない。4日にわたって走行する地域も非常に広く、環境の変化、土質の変化、高低の差も激しい。ことに高低差にいたっては海拔0mから3,000mまでの変化があるため、気温の差も大きく、40°Cからヒーターを入れなければならぬような温度に激しく変る。指示速度も異例に高く、約6,200kmの全行程を常にマシンの最高性能を駆使して走破しなければならない。まさに悪路での高速耐久レースと目しても過言ではないだろう。

71年サファリの240Z

すでに1963年からサファリへの挑戦を始め、1966年にはクラス優勝、1969年にはクラス優勝とチーム優勝の獲得と着実に成績を上げてきた日産チームは、1970年にはついに総合優勝、クラス優勝、チーム優勝と三冠の征覇をなしとげた。そして1971年には、再度の完全征覇を狙い、初出場ながら高性能スポーツカーとして知られるフェアレディ240Zを持ち込んだのである。11号車は前年の優勝チームであるヘルマン、シュラー組、12号車はアルトーネン、イースター組、31号車にメタ、ドーティ組、そしてスペアの240Zにシモニアン、ゲーリッシュ組が乗り組む。スタート地点はケニアの首都ナイロビ。4月8日正午ケニヤタ大統領の振り降す旗を合団にナンバー①のポルシェ911Sがスタートしたのをかわきりに、2分間隔で107台のマシンが約6,200kmにわたるサファリに挑戦を開始したのである。

第1ステージの南回りコースは、インド洋に面したモンバサからウサンバラ山系を経てダルエスサラームまで南下し、ドドマを経由してアフリカ最高峰を誇るキリマンジャロ山をまわり、ナイロビに帰ってくるコースである。今年の出走車数は107台と多くその中でもヨーロッパのファクトリーチームはストップ・ザ・ダットサンの合い言葉のものに強力なチーム編成をしていた。特に5台のエースコートTCを参加させたイギリス・フォードチームは、出走車のサポートのために6機の飛行機をチャーターするという空からのサービス作戦でのぞんだ。さらにイタリアのランチャ・フルピアHF4台、フランスのブジョー504インジェクション4台、西ドイツのポルシェ911S3台が有力な優勝候補であった。

サファリでの成績は天候に大きく左右される。スタート時点での天気予報では豪雨との予想が出されたが、実際には晴天となり、路面のコンディションも良く、スピードを誇るポルシェ911Sが最有力という見方が支配的であった。スタートから708km走ったモンバサでは、アルトーネン組の204Zが失点5でリードし、ワルデガルド組のポルシェ911S、ムナーリ組のランチャHF、ミッコラ組のエスコートが失点6でこれに続いていた。しかし、ウサンバラ山系の中で不幸はアルトーネン組におとずれた。サスペンションを岩にぶつけたため、約1時間のロストタイムで6位にまで落ちてしまったのである。さらにゲーリッシュ、シモニアン組の240Zは、200km/h近いスピードで走行中、タイヤをパンクさせ、ブレーキ、フェュエルパイプなどを壊してリタイア、ダットサンワークス勢の一角がくずれ去った。しかし、11号車のヘルマン組は、第1ステージを行くワルデガルドのポルシェ911Sを13点差まで追い上げ、2位についたのである。アルトーネン組もその後の健闘で3位に進出、さらにもう1台の240Zメタ組も6位につけていた。現地ではポルシェの絶対優勢が伝えられており、この240Zの健闘は大きな反響を呼び起した。この第1ステージが終ったところで、すでに43台が戦列から脱落、再びナイロビに戻ったのは64台になっていた。ここで約半日の休憩が与えられ、後半の北回りルートに備える。北回りルートは、ビクトリア湖の北岸のカンバラを通り、フォートボータル、シンジャ、マラバを経へケニア山の北側をまわってナイロビにもどるコースである。

解説協力 柏本寿一

(フェアレディ 240Z サファリ仕様車主要データ)

総重量	1250kg
トレッド	前・1360mm 後・1350mm
最低地上高	200mm

エンジン	L24型・水冷6気筒OHV
最大出力	200PS以上
最大トルク	24kgm以上
トランスミッション	前進5段、後退1段

サスペンション	ストラット方式四輪独立
タイヤ	ダンロップFR-14
マッド&スノー(SP44)	
ホイール	マグネシウム製 TJ-14

10日正午、第2ステージ、北回りルートの戦いが開始された。ダットサンチームの各マシンは順調に走行を続けていた。相変わらず晴天続きのサファリであった。カンバラまでは依然としてポルシェ 911S がトップをとっていた。2位がヘルマン組の 240Z、3位は同じくメタ組の 240Z とポルシェ 911S、アルトーネン組はリアサスペンショントラブルで7位まで落ちていた。ところが、ラリーも終盤に入った頃、大きなドラマが起った。トップを行くワルデガルド組のポルシェがチームメイトのザーザグ組のポルシェを追い抜こうとして道路から外れてバンクに追っ込み、ドライブシャフトを折ってしまい、ドライバーが負傷してしまった。一方、メタ組はザーザグのポルシェを振り切り、2位を確保すると共に1位のヘルマン組にわずか1点差にまで迫った。最後の夜、サファリ最大の難所の1つであるケニア山にかかる手前から、初めて激しい雨に見舞われた。しかしこの雨も大勢には影響なく、ヘルマン組とメタ組、2台の 240Z は激しく優勝を争いながら結局ヘルマン、ザーザグ組がゴールのナイロビにトップで飛び込んだのである。総合優勝は、11号車のヘルマン、ザーザグ組の 240Z、2位もわずか3点差でメタ、ドーティ組の 240Z 31号車、そして12号車アルトーネン、イースター組の 240Z が7位に入った。雨らしい雨もなく、ほとんど全コースがドライという土煙の中のハイスピードドライバーとなったが、高速性能、総合性能を誇るダットサン 240Z がポルシェ、ブショ、フォードエスコート等の強敵をおさえ、総合優勝、クラス優勝、チーム優勝の栄誉に輝き、昨年に続いてサファリを完全征覇したのである。

フェアレディ 240Z とサファリ仕様車

6,000km以上に及ぶ悪路を、起高速で連続走行することを要求されるサファリでは、出場車は、当然、非常に苛酷な試験を受けることになる。同時にドライバー、ナビゲーターのおかれる状況も苛酷なものであり、その疲労は極端なものとなる。この状態で複雑に変化する路面状況に合わせて、高度に高性能化されたマシンをコントロールするのは、肉



体的にも精神的にも非常に困難なこととなる。したがって高性能化をはかるのはもちろんであるが、それ以上に、いわゆる普通の長距離走行でのドライバー、同乗者の疲労を少なくする方法と同じ考え方のもとに、マシンのチューニングがほどこされる。たとえばエンジンでは、パワーが要求されると同時に低速から高速までねばり強くスムーズに回ることが要求される。乗車地を犠牲にしないで悪路を走破でき、高速でのコーナーリングも優れたサスペンション。柔すぎもせず、固すぎもしないホールドの良いシート等々、激しい緊張の中におかれれるドライバー、ナビゲーターの疲労を少しでも軽めようと、慎重な配慮がなされる。安全確保の面では、頑丈なロールバーと4点式シートベルトが備えられ、フロントウインドウが合わせガラスに変えられる。さらに前方を強力に照らすスポットランプとフォグランプが取りつけられ、大電流の使用を許容できるオルクネーターと各種電装品類の改造、騒々しい室内でドライバーとナビゲーターの通話を助けるインターフォン等が備えられるが、生産車としてのオリジナリティを生かした、バランスのよいラリーカーとして仕上げられるのである。個々の部分についてもう少し詳しく述べてみよう。サスペンション関係では、最低地上高をノーマルの165mmから200mmにするためにバネのセ

ッティング位置を35mm高くすると共に、バネ常数を約5~7割大きいものとしている。スタビライザーは10mmから前21mm、後22mmと太くし、ショックアブソーバも減衰力を2~3倍と強力なものに変えられている。タイヤは日本ダンロップ製の FR70-14・マッド&スノータイヤで最高速215km/hまで十分信頼できるものである。ホイールは7インチの幅を持つTJ-14のマグネシウム合金製のもので、バネ下重量を下げ、ロードホールディングの向上、加減速時の性能向上の一役買っている。エンジンは、サファリの猛烈なヒートと泥水に対処するため、特殊な防塵、水密対策を施したエアクリーナー付のソレックス3連装キャブレターを装備、最大出力200PS以上、最大トルク24kgm以上をしばり出す。しかし、このエンジンは無暗にハイチューンを狙ったものではない。抜群の耐久性と使い易さも兼ね備えている。トランスミッションは前進5段、5速はオーバードライブとなつておらず、ギア比は非常にクロースしたものとなっている。デファレンシャルギアはギア比4,625のデフロック付である。ボディー関係では、左右のドア、ボンネット、テールゲートがFRP製、サイド及びリアウインドウはアクリル製として軽量化が図られている。アンダーガードは、フロントバンパードからトランシムシジョンまでおおう、厚さ10mmのジュラルミン製の頑丈なもので、少々のことではオイルパン、トランシムシジョン、サスペンションメンバ等にダメージを受けないようになっている。ライト類では、フォグ及びスポットランプが追加され、ナビゲーターのためにマップランプの取付け、さらに回路を細かくすることによってトラブルの発生を減少にどめるくふうがなされている。もちろん防水、防振対策は入念に行なわれている。その他、長距離走行に備えてガソリンタンクの容量が100Lとされ、さらにマッドフラップの取付け、ラリーメーターの取付け、安全装備など、細部まで苛酷な戦いに備えて入念な配慮が各所になされているのである。サファリに勝ち続けるのは容易なことではない。

1972年のニッサンチームは、240Z 3台ブルーベードU1台でサファリに挑んだが総合5、6、12位という成績に終り、サファリ史上初の三年連続総合優勝の夢はついえ去ったのである。とはいえ、ニッサンの三連続チーム優勝、それに二年連続の三冠征覇という偉業は、サファリの歴史に永くとどめられ、ニッサンの次の活躍の大きな原動力となるにちがいない。





★お買い求めの際、また組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などには応じかねます。

★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

★マイナスドライバーをご用意下さい。当社からクラフトツールが発売されています。ご利用下さい。

★図中青く印刷されているところは焼きつぶしか、接着部分です。

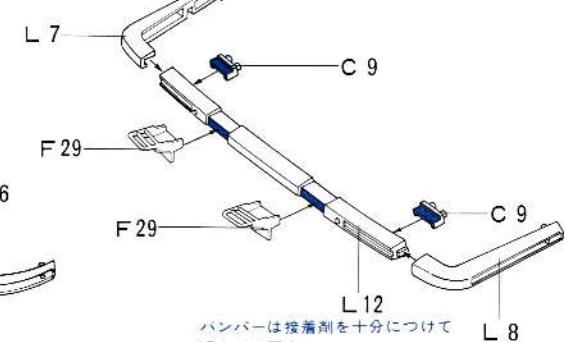
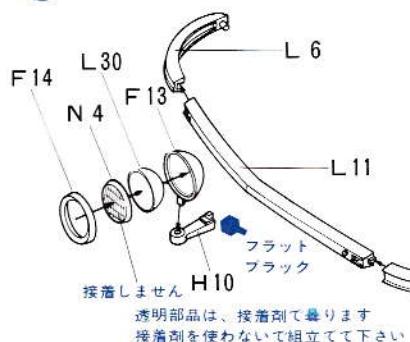
●は、塗装指示のマークです。部品図に色指定がしてあります。細かい部品はランナーについているうちに塗ります。楽しい塗装をしたい方は各ページのPAINTINGの所を見ましょう。

1 トランスバースリンクの組立て

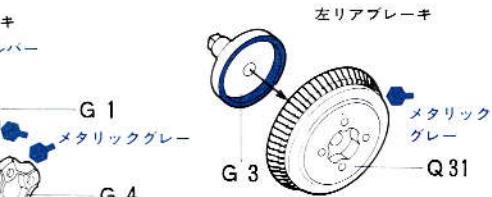
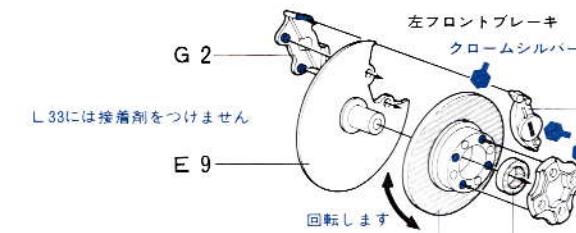
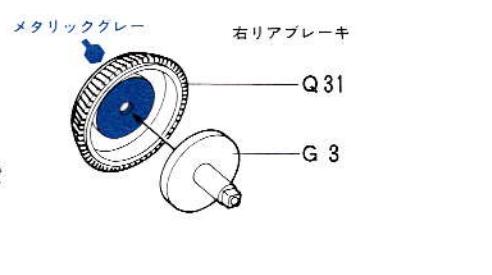
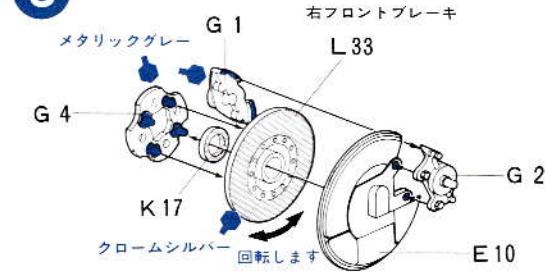
トランスバースリンクにはストラットのボールジョイントが動く状態で取付けられます。接着剤がE18のみぞに入らないよう注意して下さい。



2 バンパーの組立て



3 ブレーキシステムの組立て

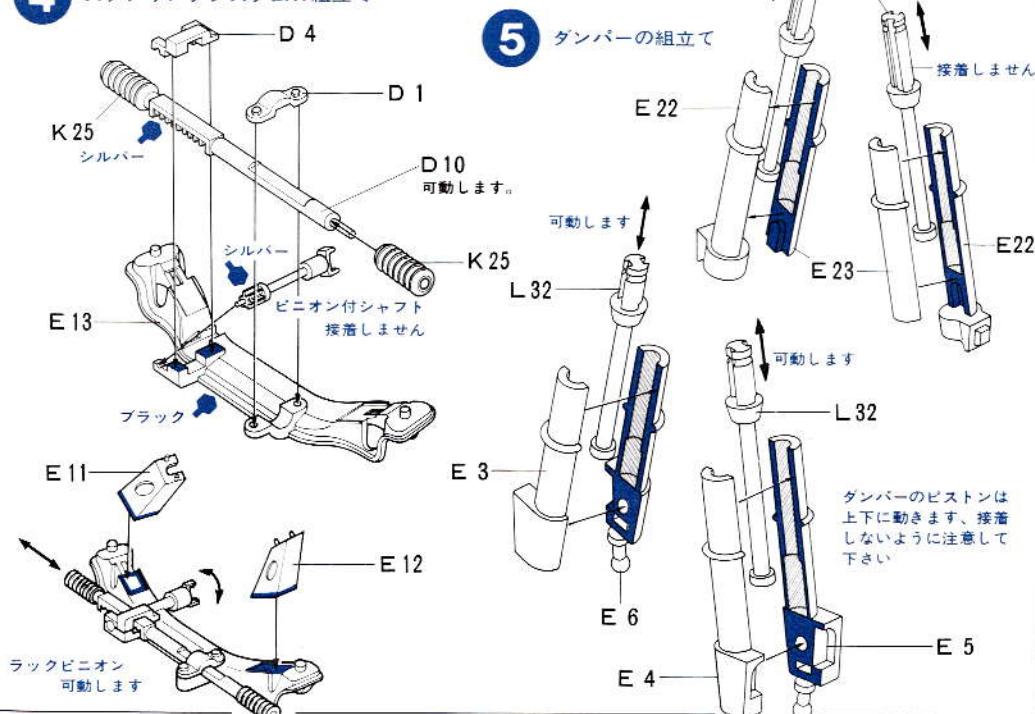


4 ステアリングシステムの組立て

ラック・ビニオンは可動します。D4の接着は注意して行って下さい。



5 ダンパーの組立て

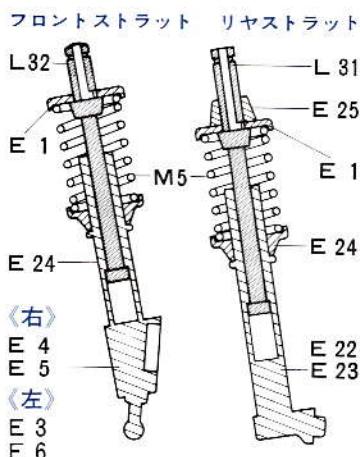
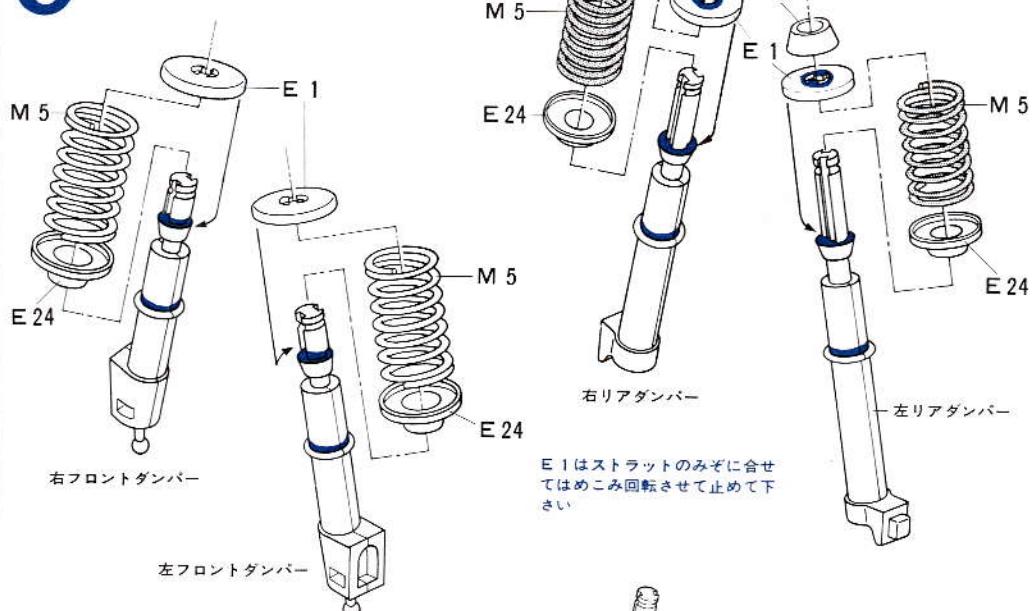


PAINTING

240Z にあふれるメカニズムの美は塗装によっていっそうすばらしいものになります。また塗装作業は、あなたの創作意欲を十分に満足させることでしょう。説明図の各ページに基本的な塗装説明が入っています。これを参考にあなただけのモデルを作って下さい。

6 ストラットの組立て

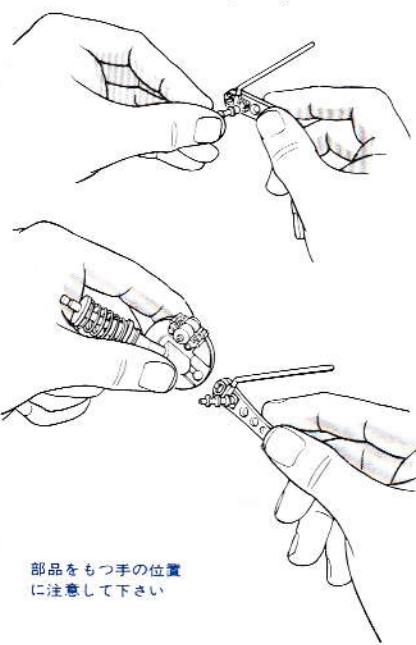
ダンパーにコイルスプリングを組合せてストラットを組立てます。E 1の取付は、ダンパーのみぞに合せて通し、回転させて止めて下さい。

**6** ストラットの組立て**7** アクスルの組立て

アクスルの組立てでは各部品の取付け角度に十分注意して下さい。接着剤は両面につけて、乾燥時間を十分とって下さい。

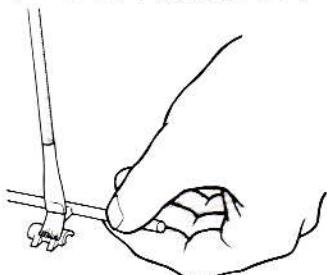
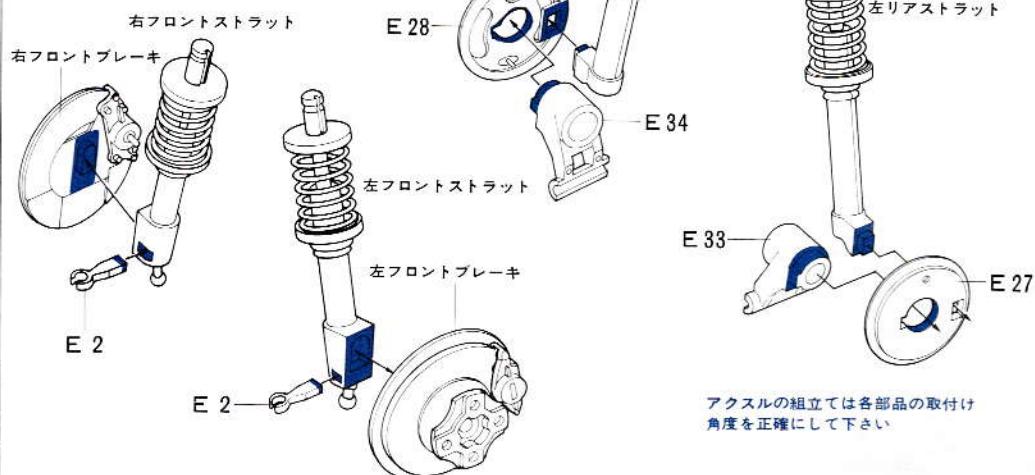
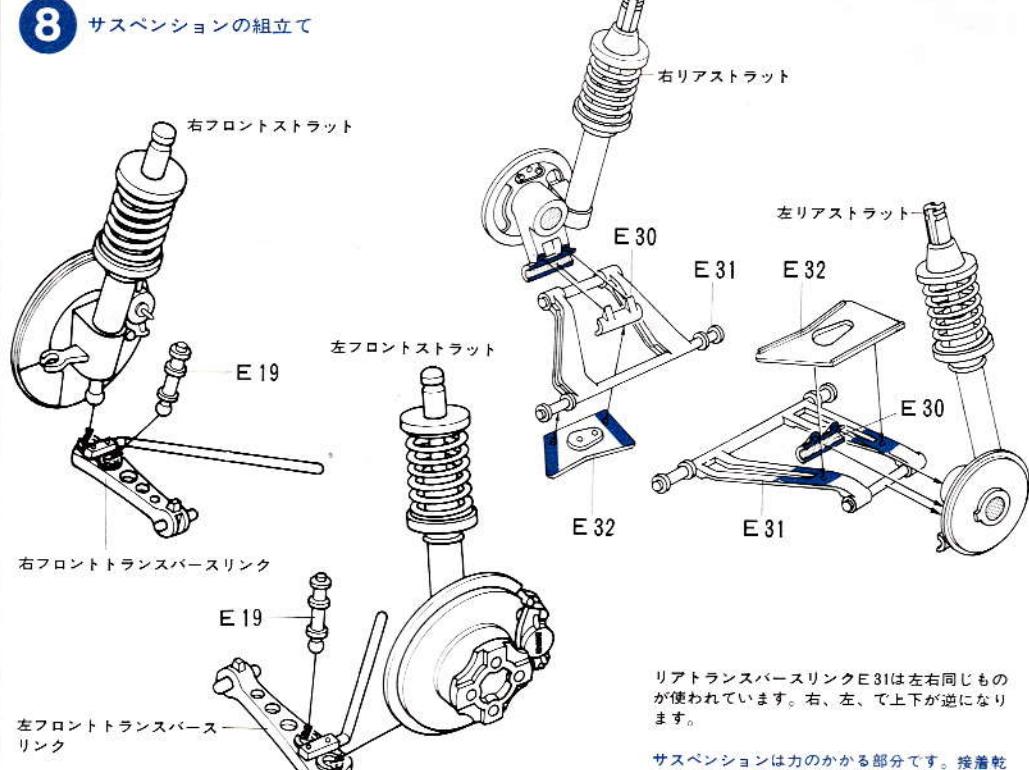
8 サスペンションの組立て

トランスマ克斯リンクにストラットを取り付けるときには、ストラットを折らないように注意して下さい。下図の手の位置を参考にして下さい。

**PAINTING**

《アップライトの塗装》

リマックスルの様に小さな部品は下図の様に合せ目をきれいにしてから塗りかわいてからさりはなして下さい。

**7** アクスルの組立て**8** サスペンションの組立て

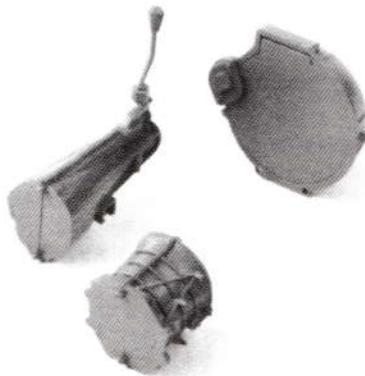
9 スパークプラグの取付け

スパークプラグはあらかじめビニールコードを取付けて接着して下さい。エンジンを組立てた後では修理できません。接着剤は十分つけて下さい。



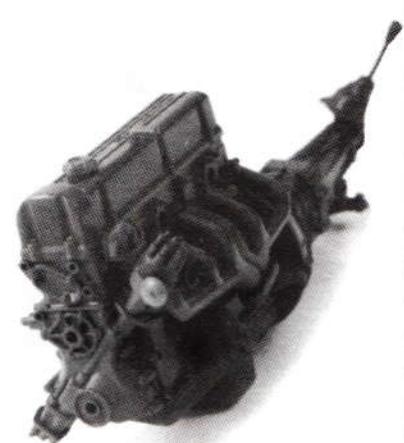
10 シリンダー・ミッションの組立て

ミッションの組立てでは、シフトレバーは、可動します。G 37, G 38を合せるときに忘れずにL 10を入れて下さい。



11 L 24型エンジンの組立て

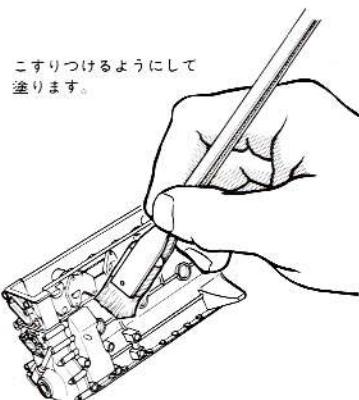
各パーツの取付位置を正確に、組立てて下さい。



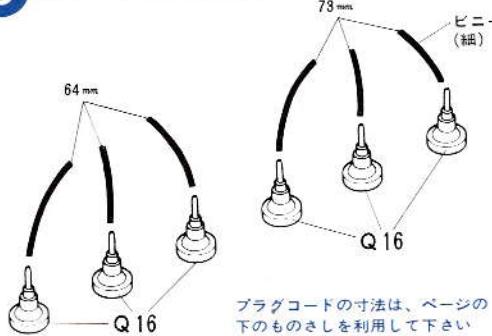
PAINTING

(エンジンの塗装)

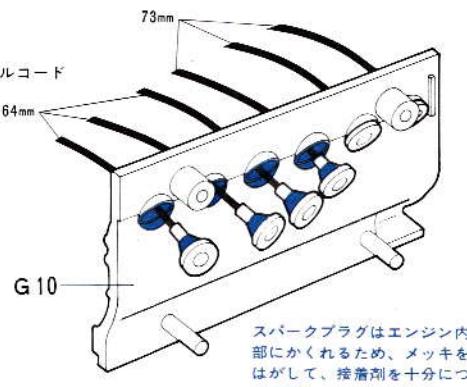
エンジンは、フラットメタリックグレーをこすりつけるようにして塗ります。



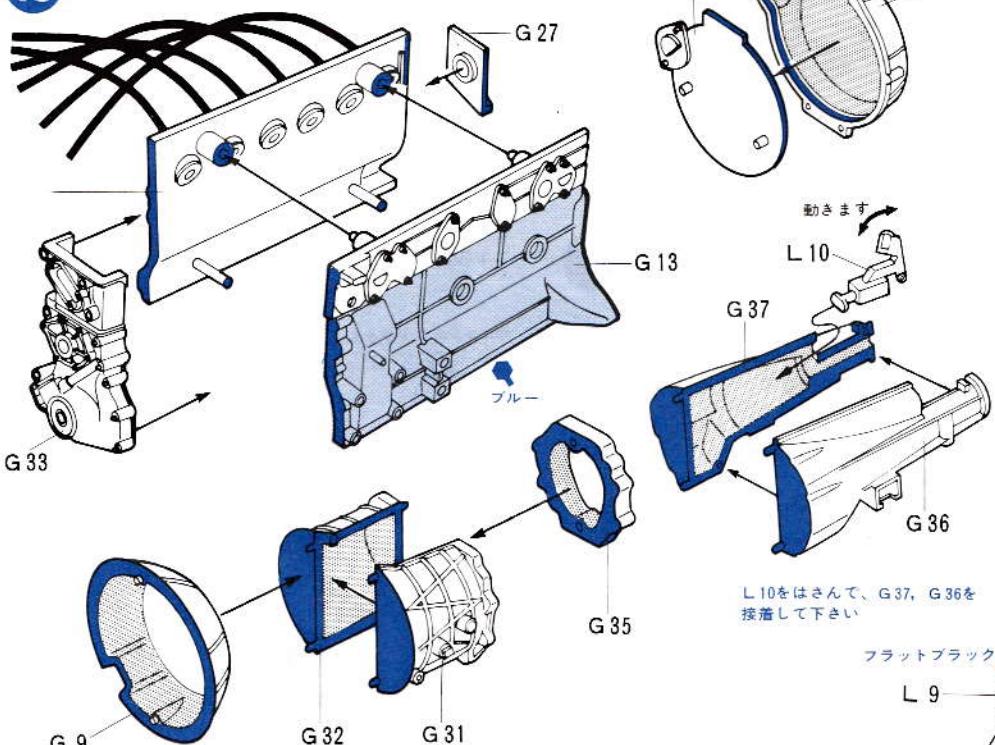
9 スパークプラグの取付け



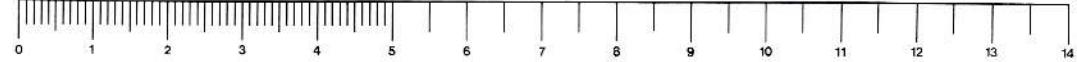
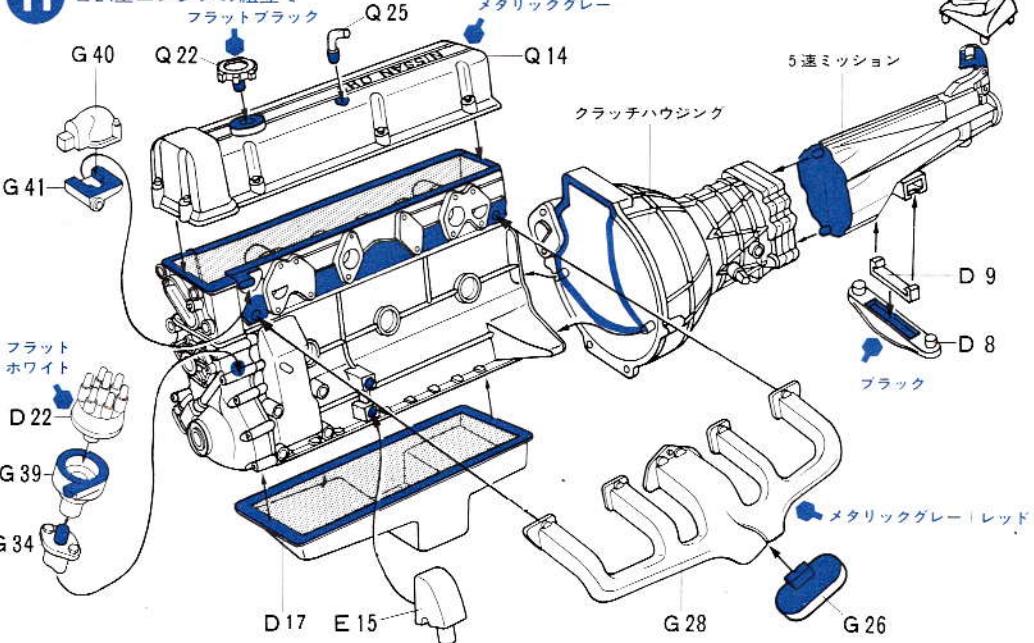
プラグコードの寸法は、ページの下のものさしを利用してください



10 シリンダー・ミッションの組立て

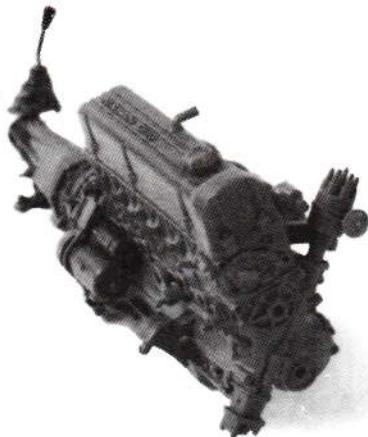


11 L 24型エンジンの組立て

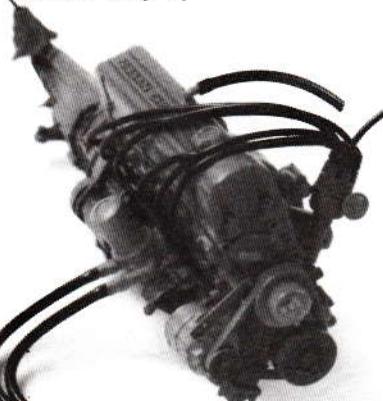


12 スターターの取付け

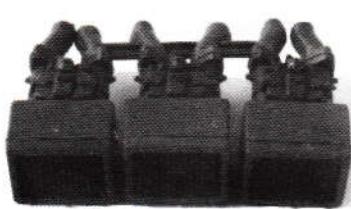
エンジン右側面部品の取付けです。各部品の取付け位置は正確に行って下さい。

**13** ファンベルト・オイルクリーナーの取付け

ダイナモの取付けは写真を参考に、取付位置に注意して組立てて下さい。オイルクーラーQ 19は塗装後に取付けるとよいでしょう。

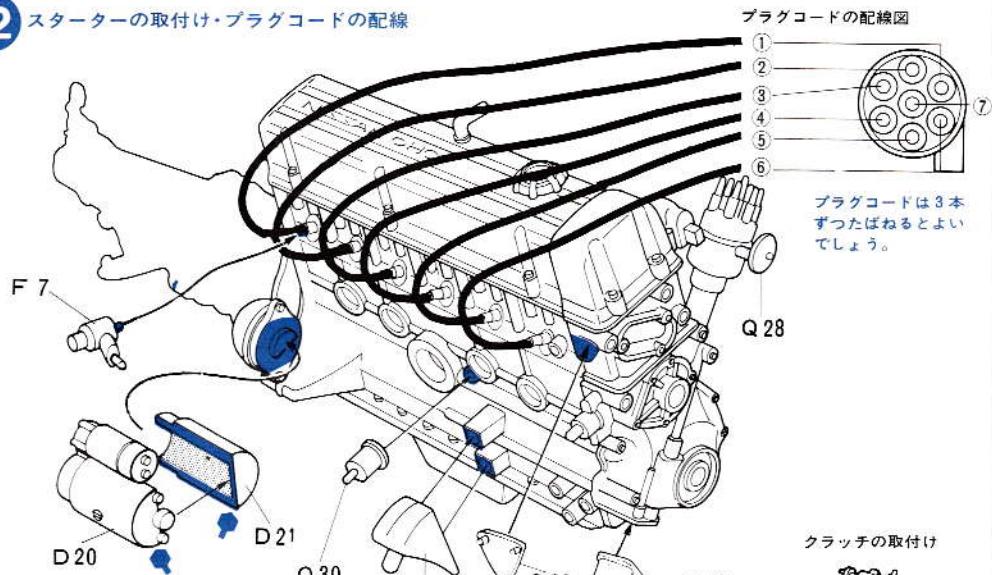
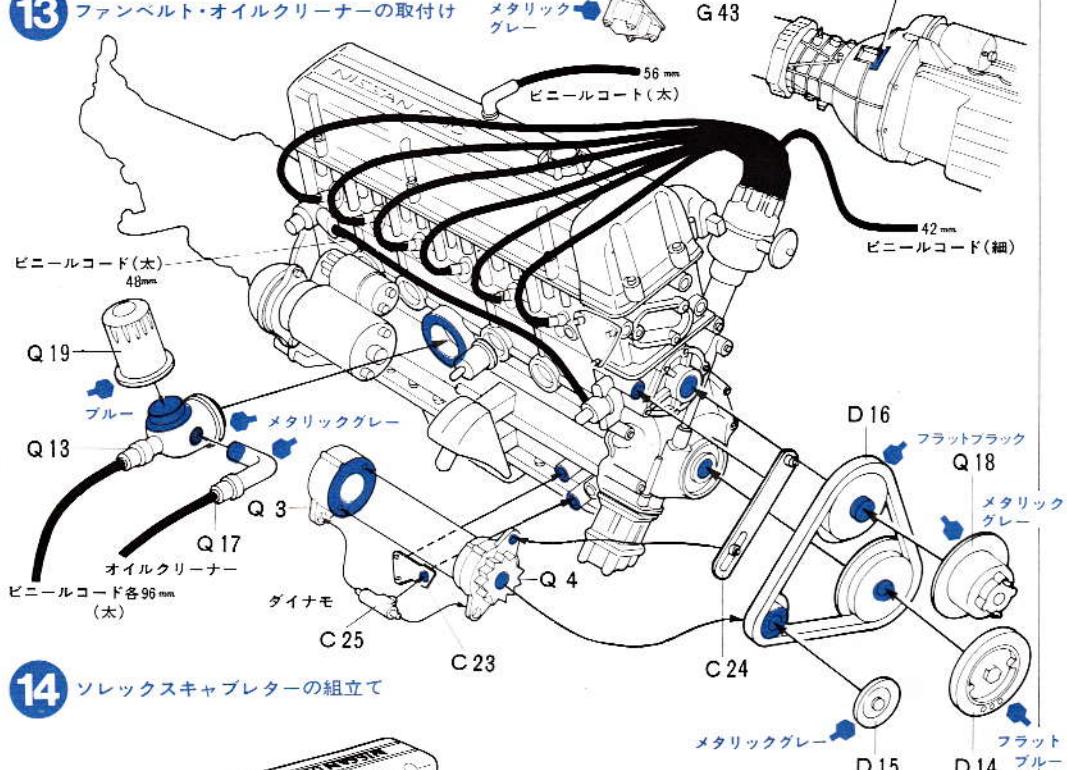
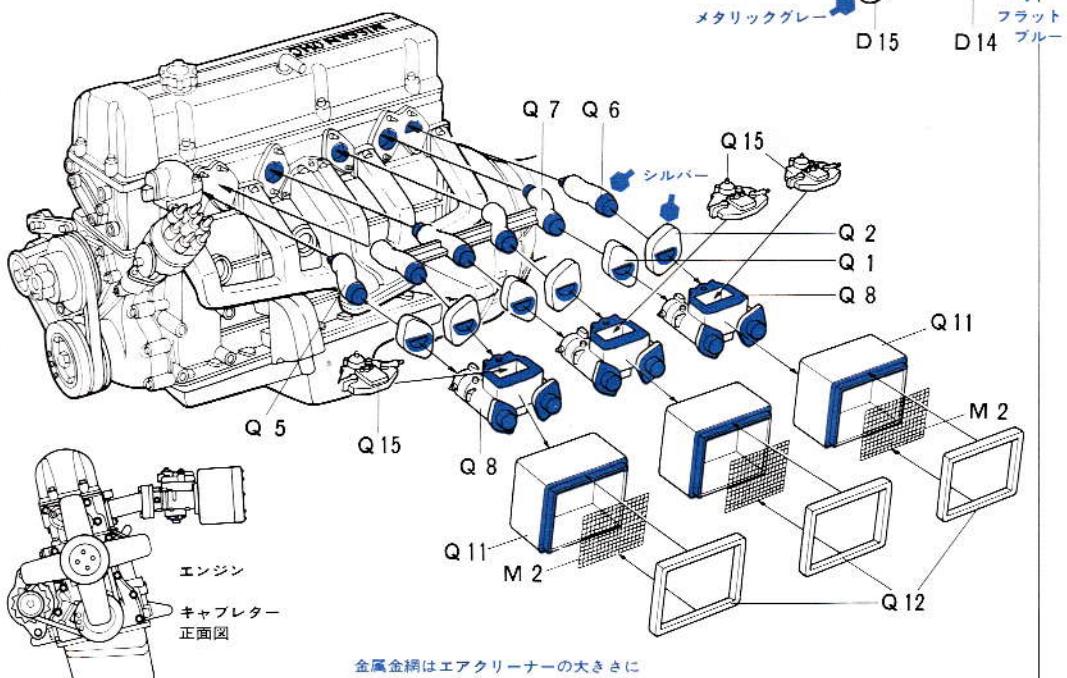
**14** ソレックスキャブレターの組立て

エンジンは右に10°傾むけて取付けられていますが、キャブレターは、水平にして組立てて下さい。

**PAINTING**

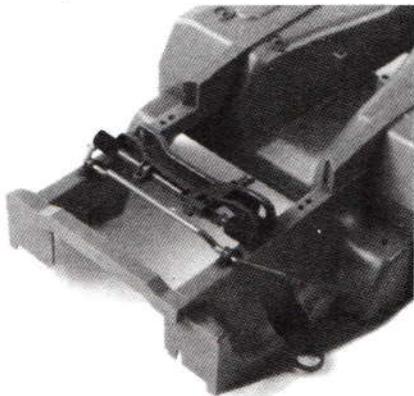
〈エンジン部品の塗装〉

エンジンと同じ色の部品でも、少し色の調子を変えて塗装しましょう。各部品の形がはっきりしてきます。

**12** スターターの取付け・プラグコードの配線**13** ファンベルト・オイルクリーナーの取付け**14** ソレックスキャブレターの組立て

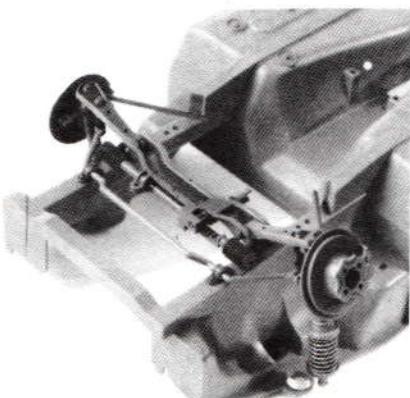
15 サスペンションメンバーの取付け

あらかじめ組立ててあるサスペンションメンバーをシャシーに取付けます。同時にスタビライザーも取付けて下さい。



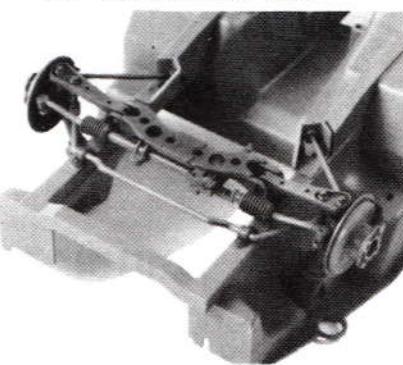
16 フロントサスペンションの取付け

フロントサスペンションの取付けには接着剤を使いません。各部品の取付けには部品を折らないように十分注意してとりつけて下さい。



17 フロントサスペンションの完成

シャシー・サスペンションメンバーに取付けた後にコンプレッションロッドサポートの取付けを行ないます。



PAINTING

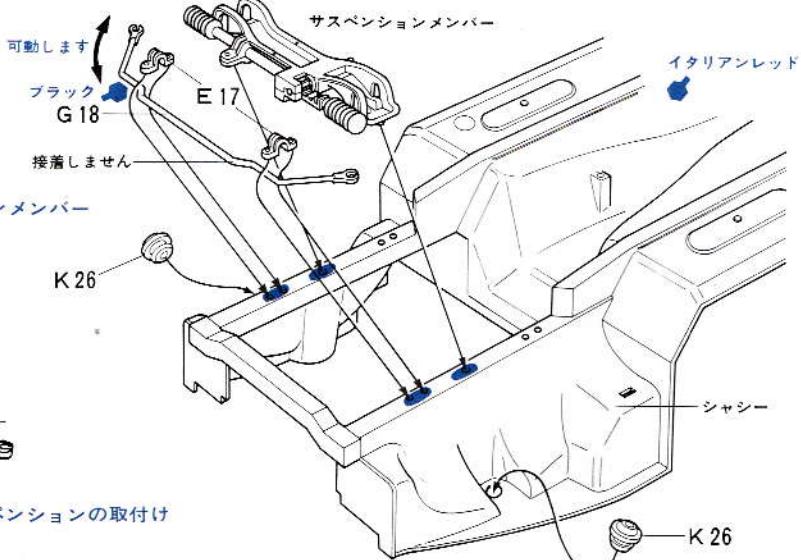
（エア・スプレー塗装）

ボディには、エア・スプレーによる塗装が向いています。タミヤのタミヤカラー・イタリアンレッドを使用。

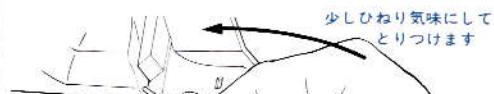


同じ方向にすばやくシュッシュとふきつけます

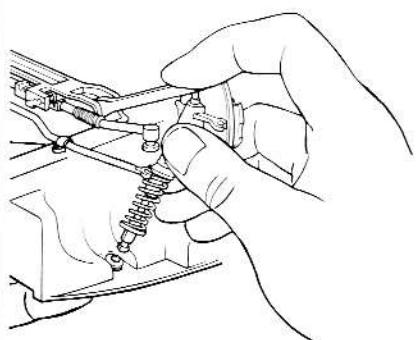
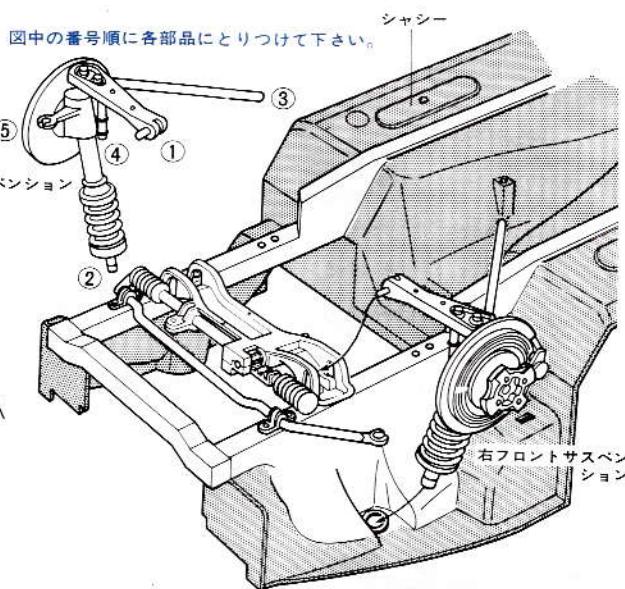
15 サスペンションメンバーの取付け



16 フロントサスペンションの取付け



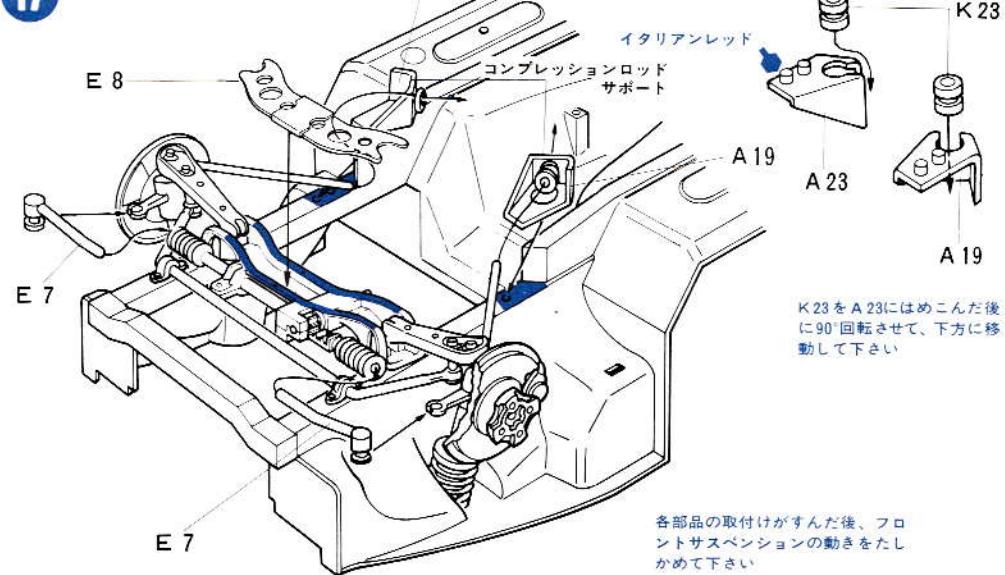
フロントサスペンション取付は接着剤を使いません



シャシーに取付けるにはコイルスプリングをもち、少しづつおしこんで下さい

17 フロントサスペンションの完成

コンプレッションロッドサポートの組立て

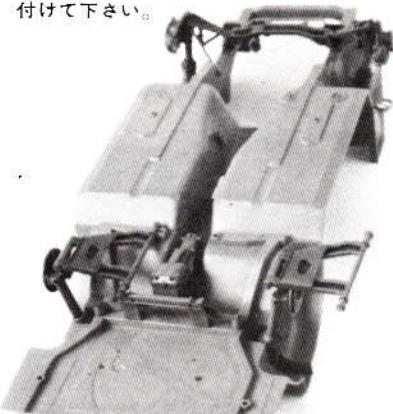


18 デフケース、ドライブシャフトの組立て

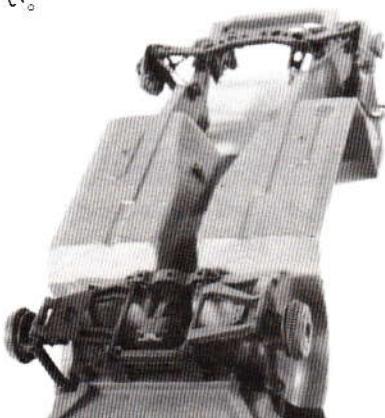
デフケースはH 6を入れて組立てて下さい。ドライブシャフトはスムーズに回転するように組立てて下さい。

**19 リアサスペンションの取付け**

デフケース及び部品K 26をシャシーに取付けた後にリアサスペンションを取り付けて下さい。

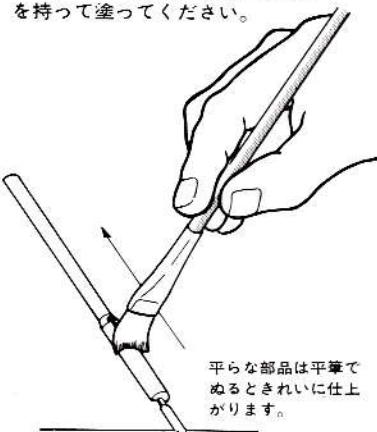
**20 ドライブシャフトの取付け**

ドライブシャフトを取付ける時には左右をまちがえないように取付けて下さい。

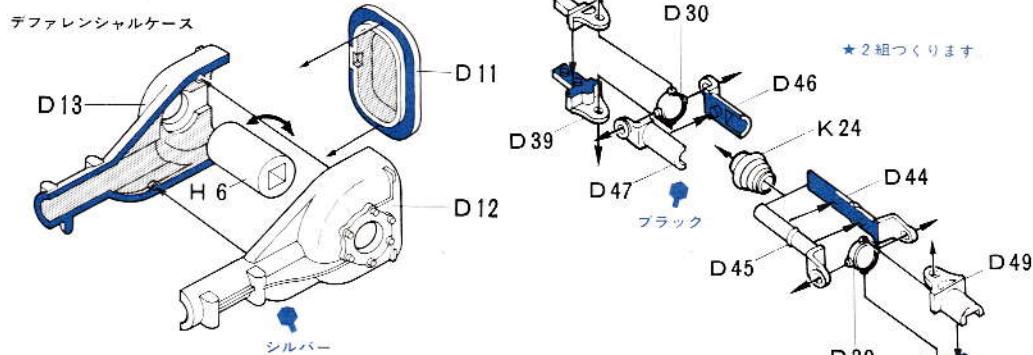
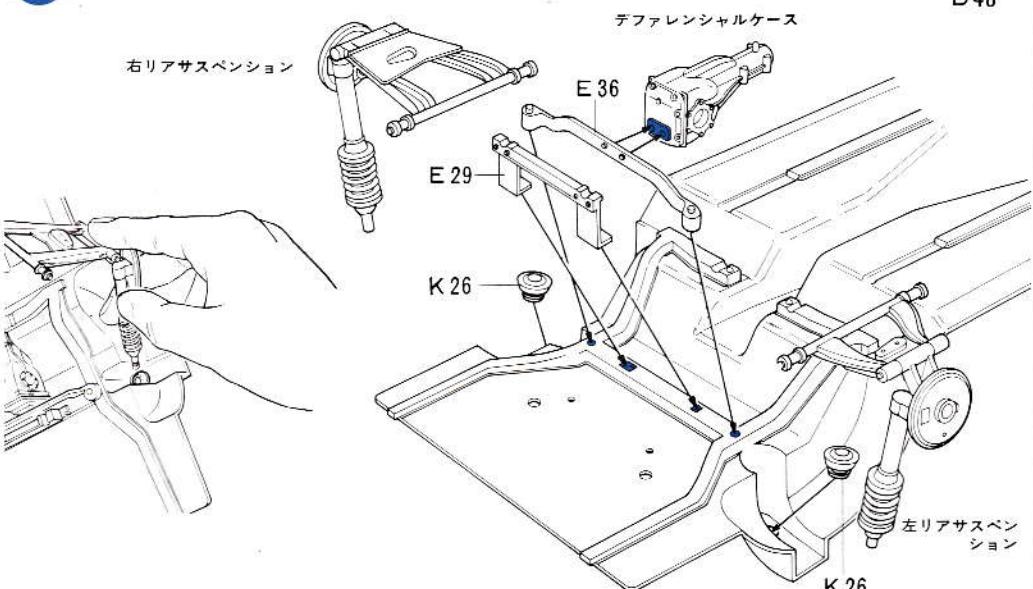
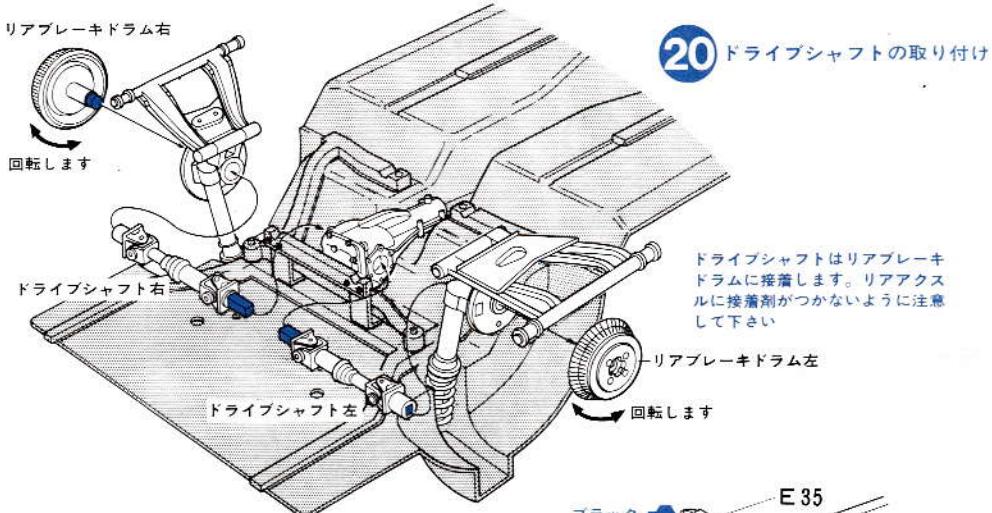
**PAINTING**

〈平筆のつかいかた〉

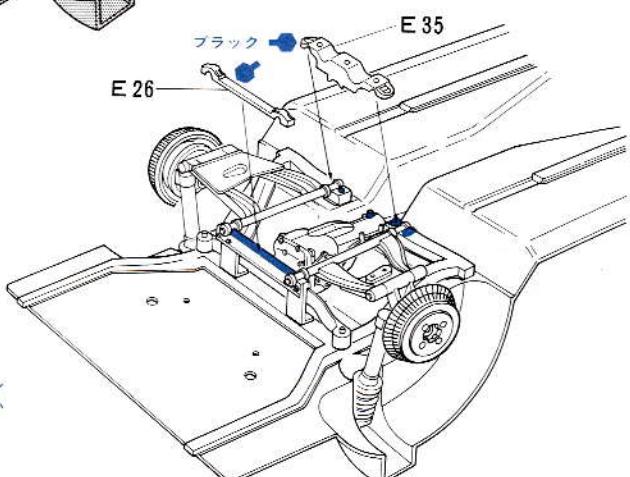
平らな物を塗るときには、平筆を使います。小さな部品の場合にはランナーを持って塗ってください。



平らな部品は平筆で
ぬるときれいに仕上
がります。

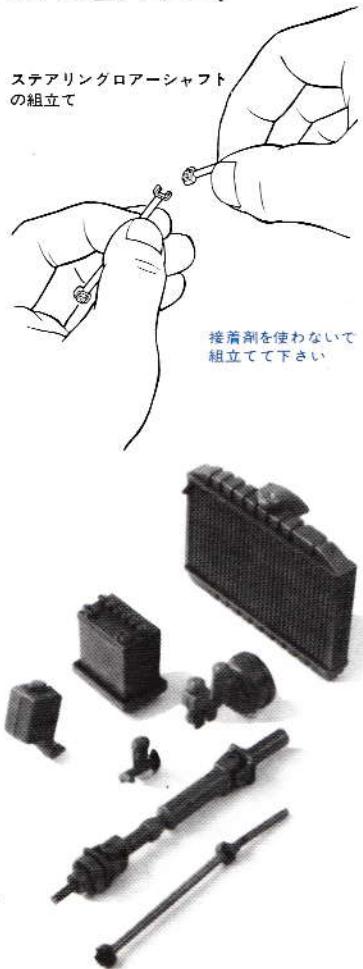
18 デフケース、ドライブシャフトの組立て**18 デフケース、ドライブシャフトの組立て****19 リアサスペンションの取付け****20 ドライブシャフトの取り付け****21 リアサスペンションの完成**

E 26, E 35の取付けには、サスペンションに接着剤がつかないよう注意して下さい



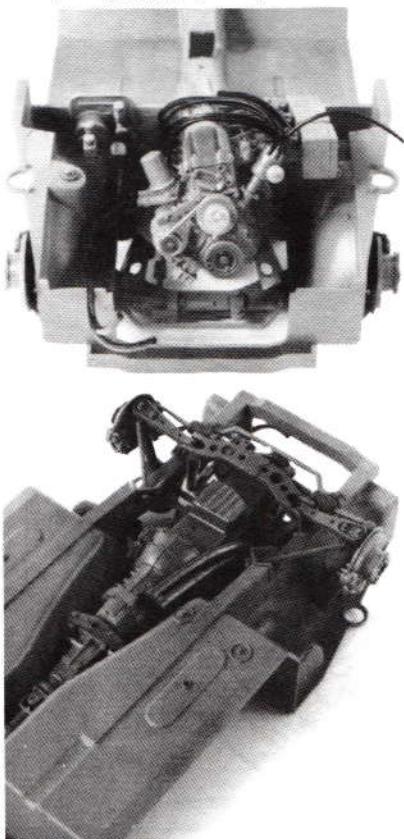
22 各部品の組立て

エンジンルーム内に必要な各部品を組立てます。ステアリングロアーシャフトは細い部品です。折れないように注意して組立てて下さい。

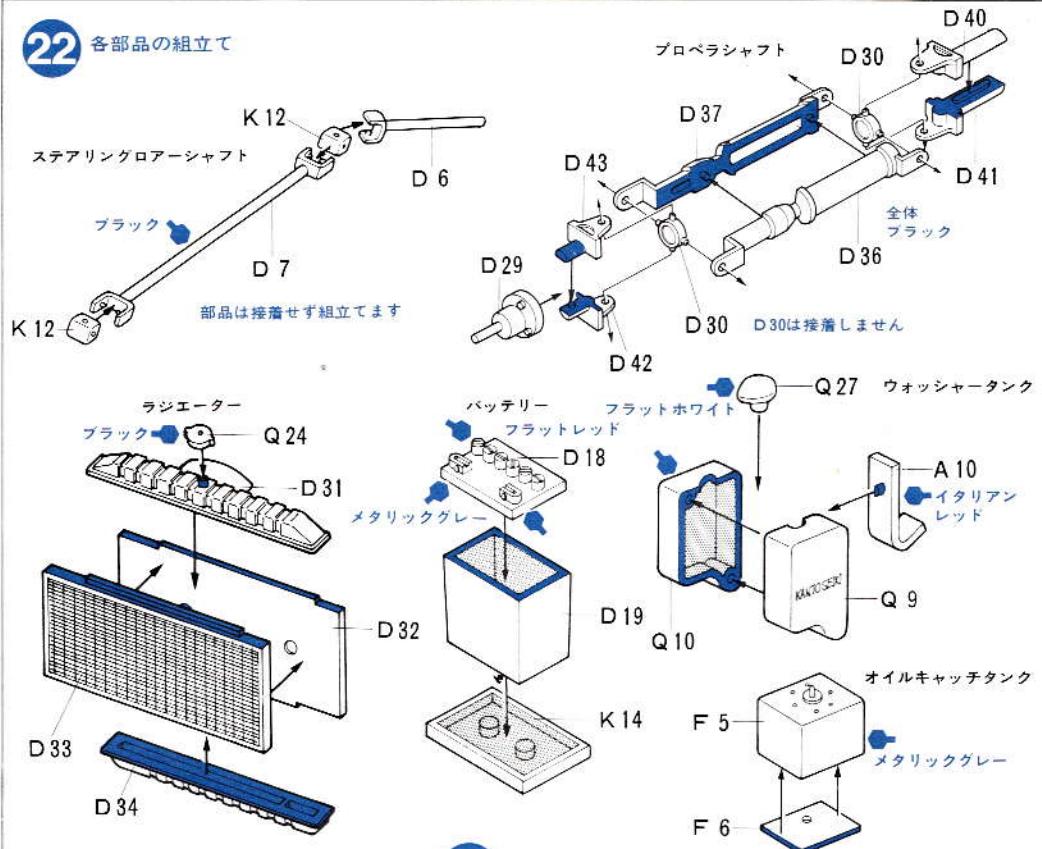


24 エンジンの取付け

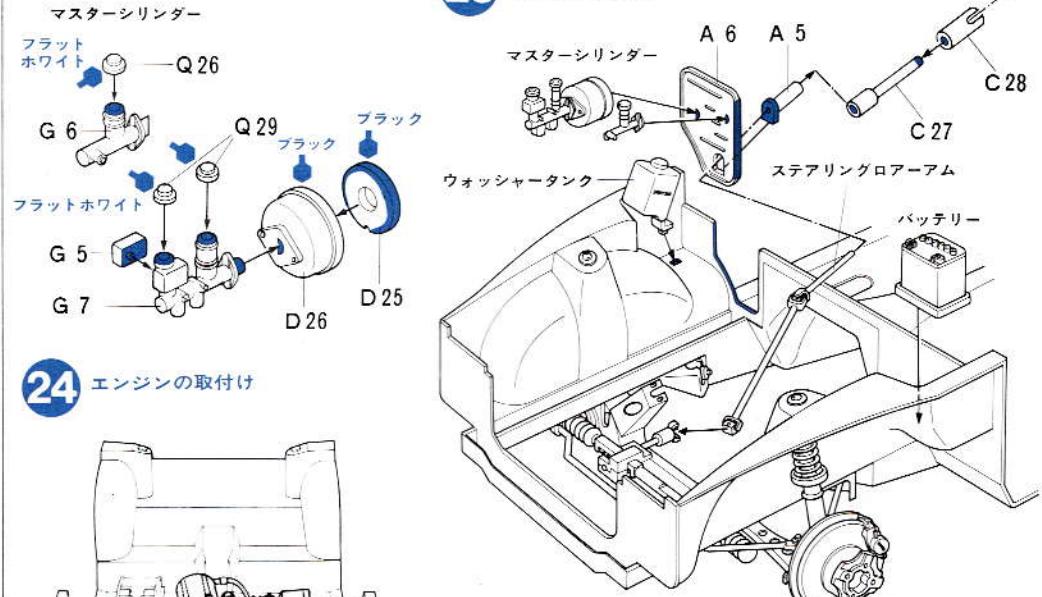
エンジンは、サスペンションメンバーと、ミッションの3点で取付けられます。K11ラバーブーツをつけて取付けて下さい。接着しません。



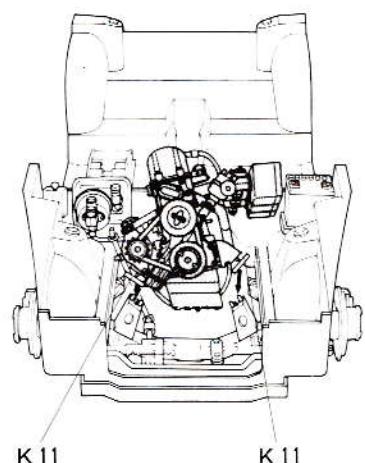
22 各部品の組立て



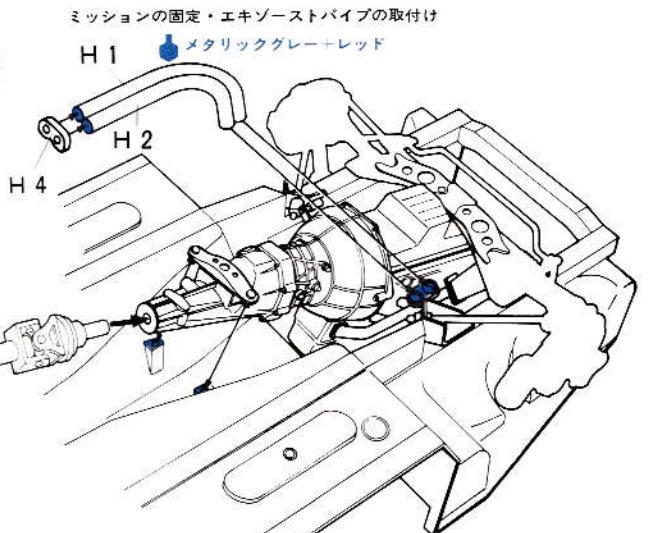
23 各部品の取付け



24 エンジンの取付け

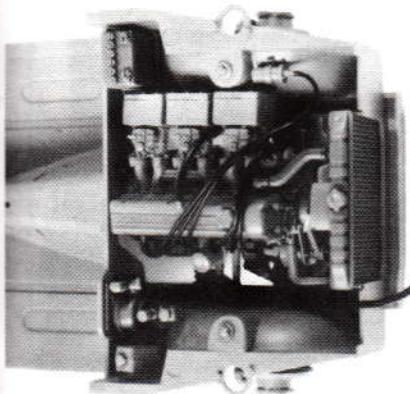


プロペラシャフトは、エンジンの取付けを同時にデファレンシャルに合せてとりつけて下さい

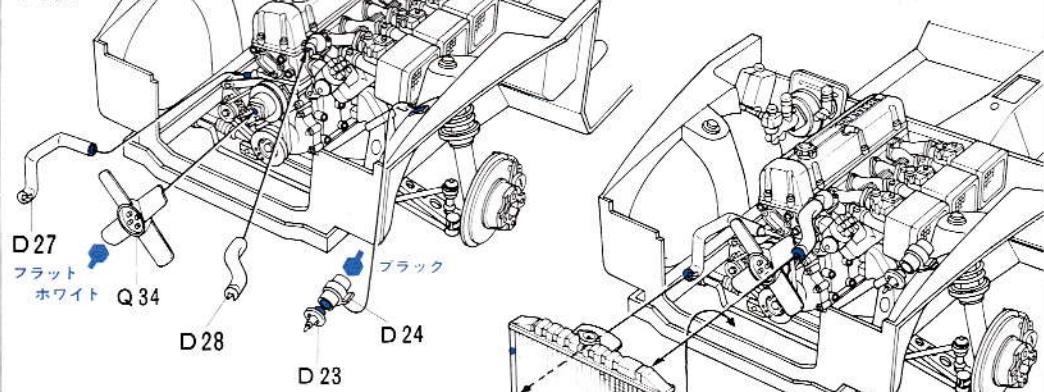


25 ラジエーターの取付け

ラジエーター関係部品を取付けた後にラジエーターをシャシーに取付けて下さい。

**25 ラジエーターの取付け**

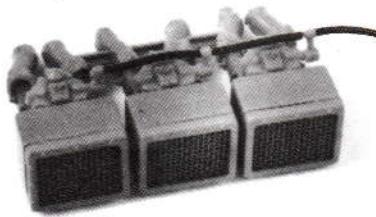
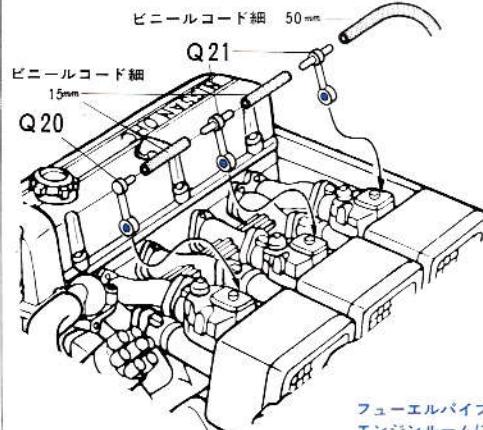
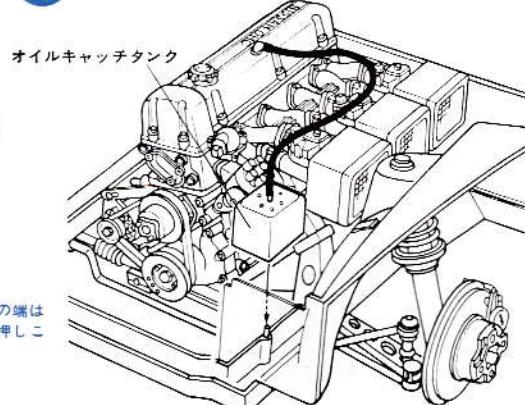
オイルクーラー
パイプをだして
おきます



ラジエーターの取付位置は
写真を参考にして下さい。

26 フューエルパイプの配管

キャブレターにフューエルパイプを取付けます。フューエルパイプの一方の端はエンジンルーム内に押しこんで下さい。

**26 フューエルパイプの配管****27 ブリーザーパイプの配管**

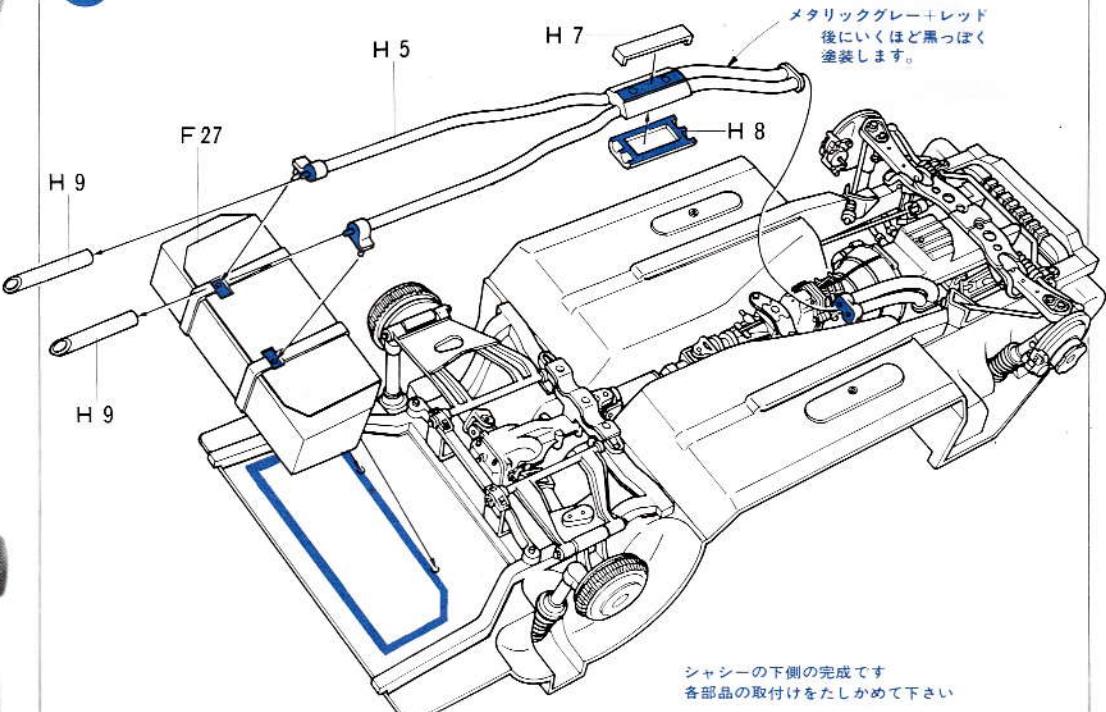
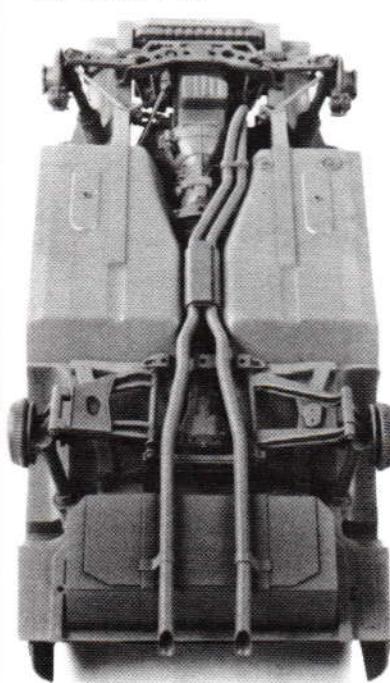
フューエルパイプの端は
エンジンルームに押し
こんで下さい。

27 ブリーザーパイプの配管

ブリーザーパイプは、エンジンルーム
内のオイルキャッチタンクに取付けて
下さい。

**28 デュアルタイプマフラーの取付け**

マフラーは、ガソリンタンクと同時に
とりつけて下さい。



シャシーの下側の完成です
各部品の取付けをたしかめて下さい

29 各部品の組立て

オイルクーラー、エアホーン、ステアリングを組立てて下さい。ステアリングは回転をたしかめて下さい。



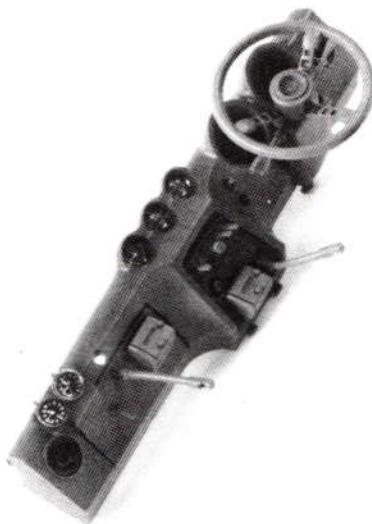
30 ペダルプラケットの組立て

クラッチ、ブレーキペダルは動きます。
接着剤は注意してつけて下さい。



31 インストルメントパネルの組立て

それぞれの部品は表側からとりつけますが、メーターと、エアダクトは内側からとりつけて下さい。

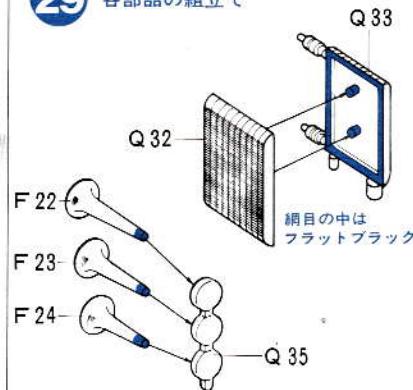


PAINTING (仕上げ)

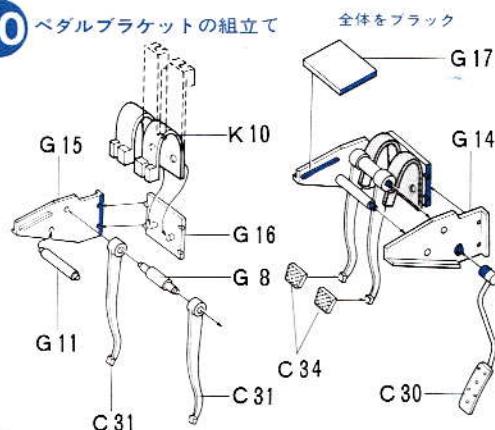
タイヤの文字塗りには細筆を使います。



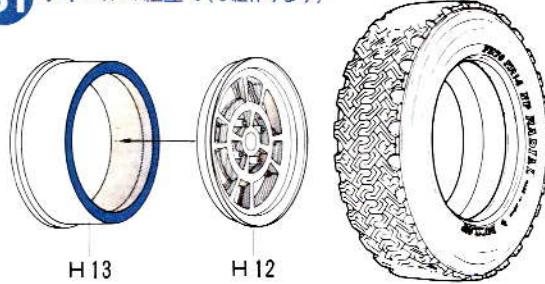
29 各部品の組立て



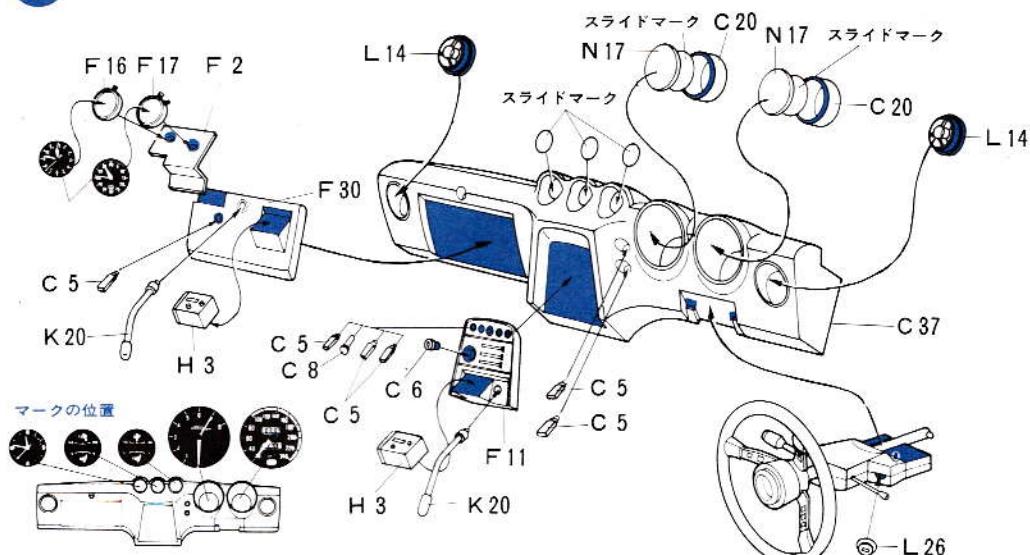
30 ベダルプラケットの組立て



31 ホイールの組立て(6組あります)

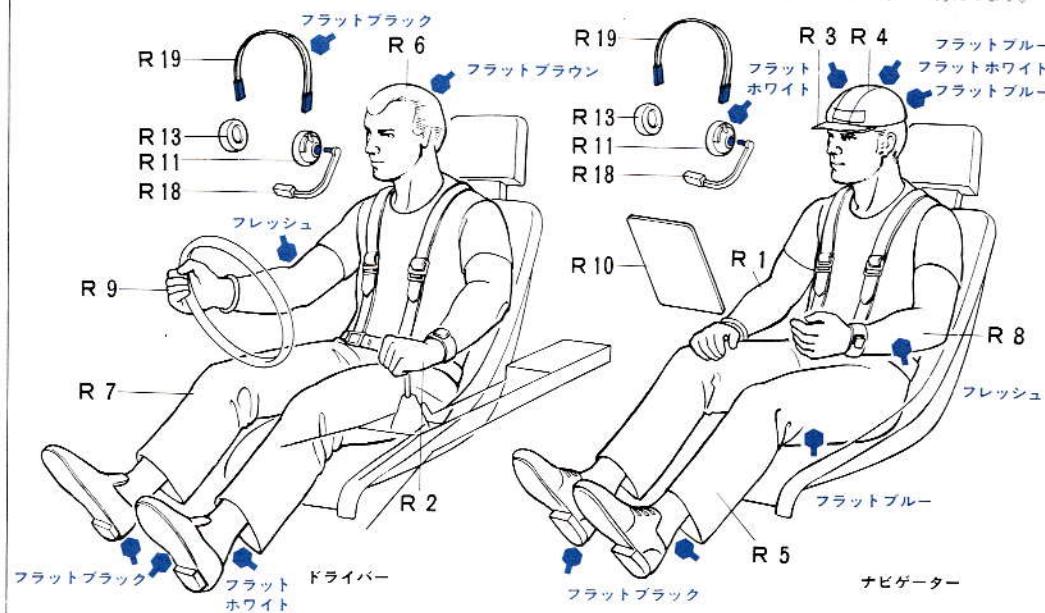


32 インストルメントパネルの組立て



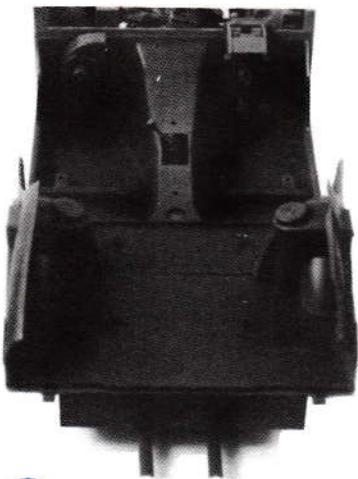
33 ドライバーとナビゲーターの組立て

ヘッドホーンは両方にかぶせて下さい。
ボードR10はナビゲーターに持たせます。

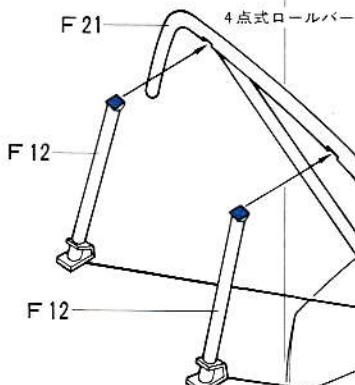


34 フロアマットの取付け

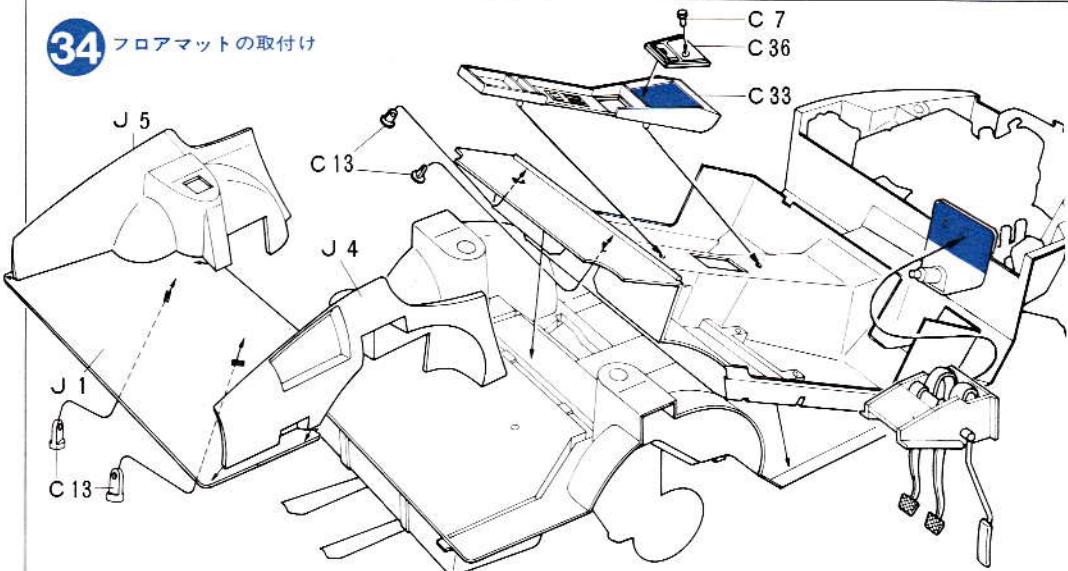
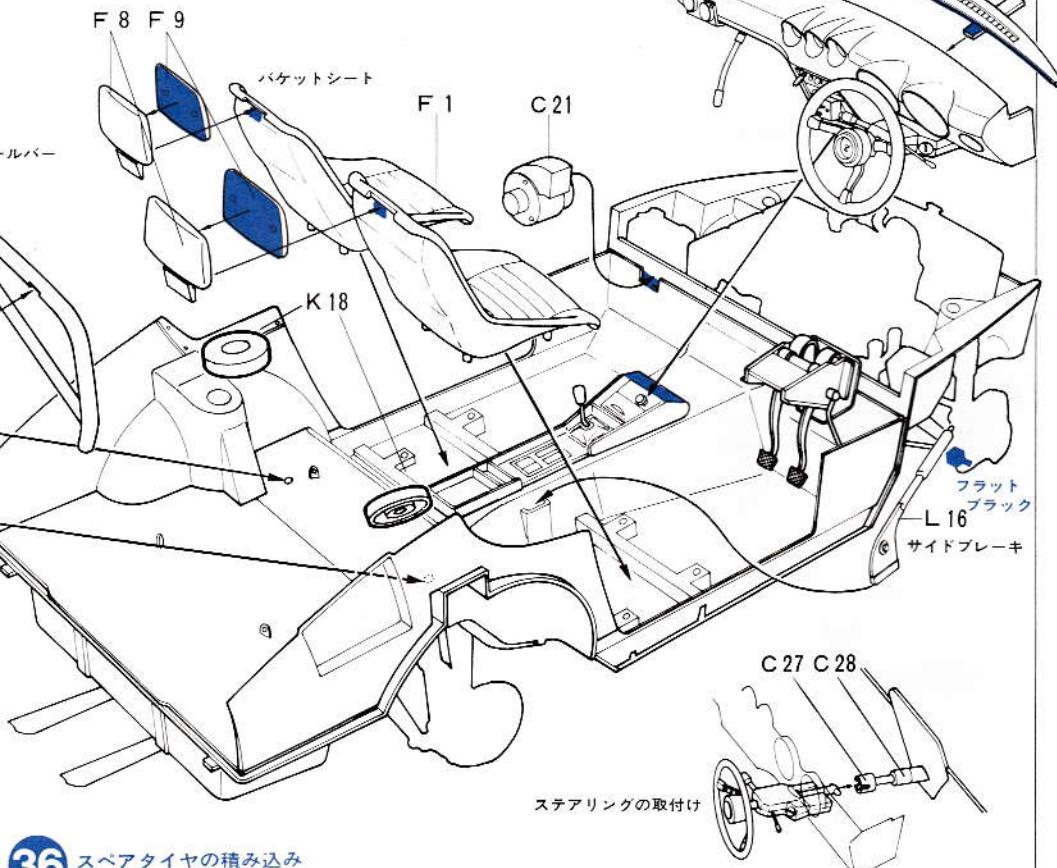
レザータッチのフロアマットをシャシーに組みこんで下さい。部品C13を忘れないでとりつけておいて下さい。

**35 コックピットの組立て**

インストルメントパネル・パケットシート・ロールバーを取り付けてコックピットを仕上げて下さい。

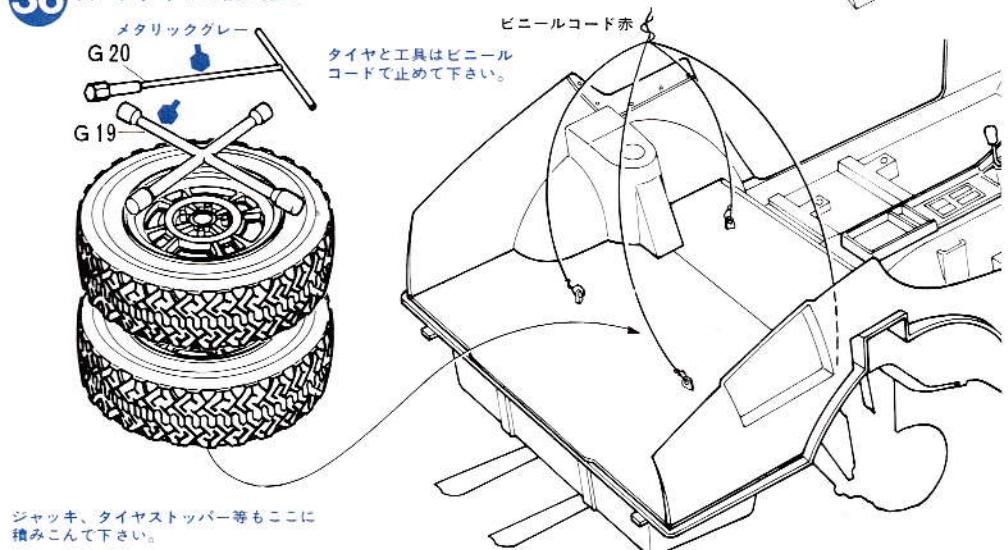
**36 スペアタイヤの積み込み**

スペアタイヤ、工具を後部トランクに積みこみます。スペアタイヤは、ビニールコードで止めて下さい。

**34 フロアマットの取付け****35 コックピットの組立て****36 スペアタイヤの積み込み**

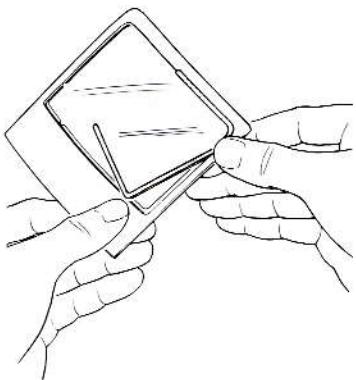
メタリックグレー
G20
G19

タイヤと工具はビニールコードで止めて下さい。



37 テールゲートの組立て

テールゲートはガラスN13を取付けたのちにウェザーストリップをはめこんで下さい。



39 ドア部品の取付け



40 内側からとりつける部品

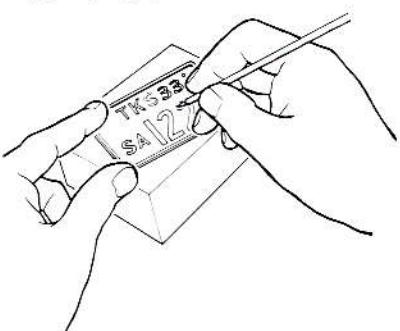
ボディのうら側からとりつける部品を組立てます、各部品は一度仮にとりつけて形をたしかめてから、接着して下さい。



PAINTING

《ナンバープレートの塗装》

小さな台を使い、ナンバープレートを固定しておいて、ていねいに塗装するのがコツです。

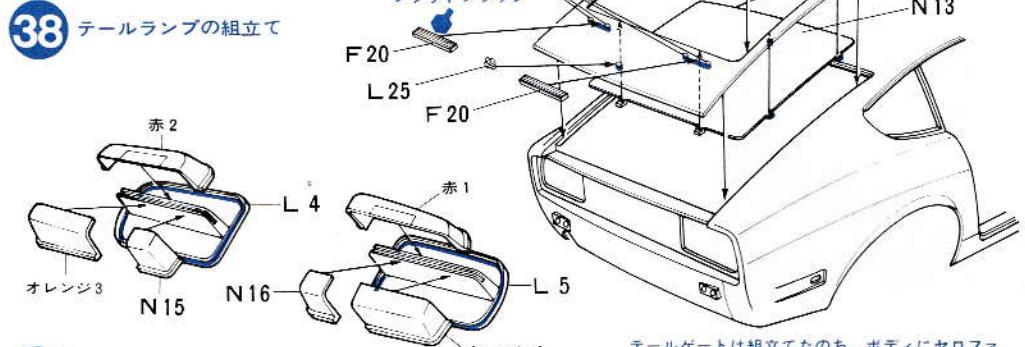


37 テールゲートの組立て

K 19
K 16
A 20
N 13
F 20
L 25
F 20
赤2
L 4
赤1
オレンジ3
N 15
N 16
オレンジ4

★内側から穴を開けます。

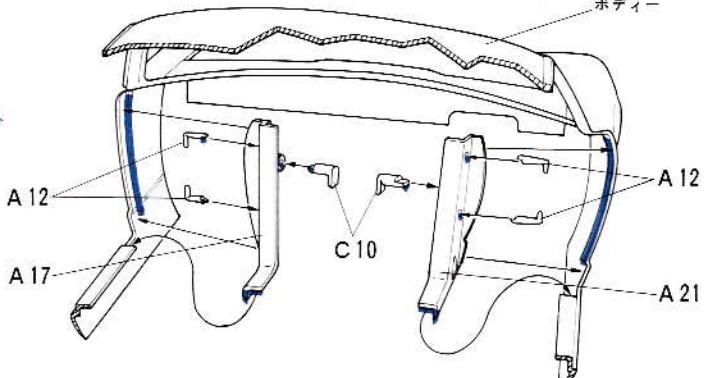
フラットブラック



39 ドア部品の取付け

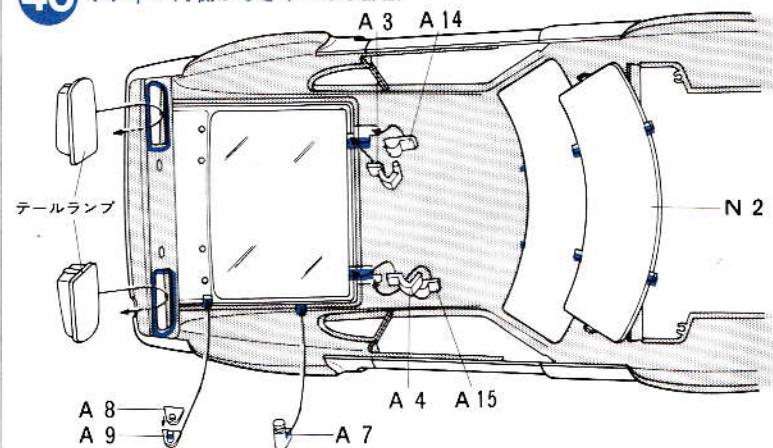
テールゲートは組立てたのち、ボディにセロファンテープ等で仮止めして下さい。

ボディー

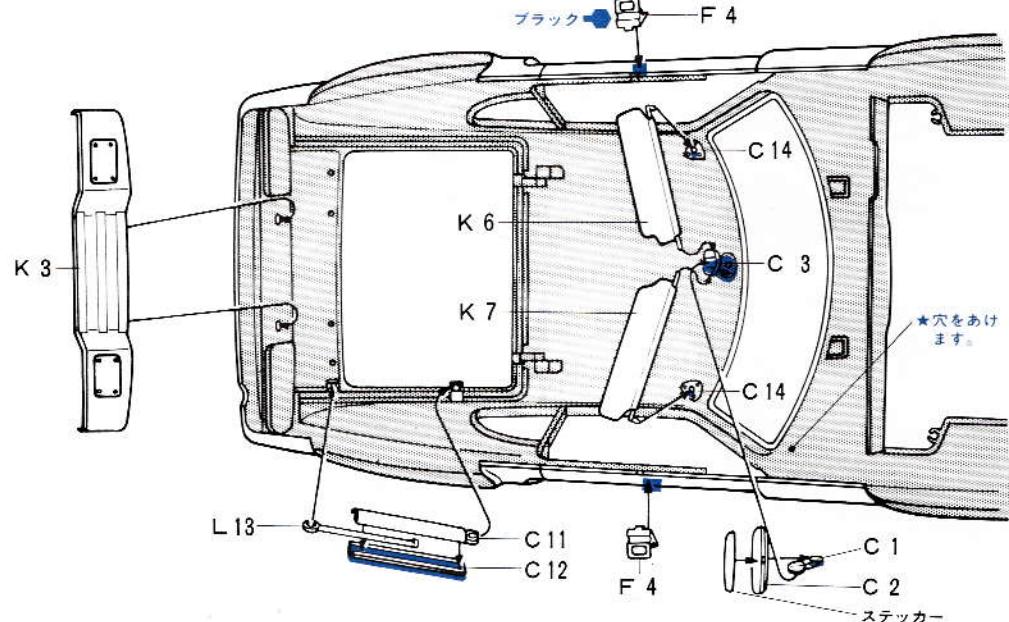


40 ボディー内側からとりつける部品

各部品は接着剤をつけずに仮に組立てて形をたしかめて下さい。



ブラック F 4

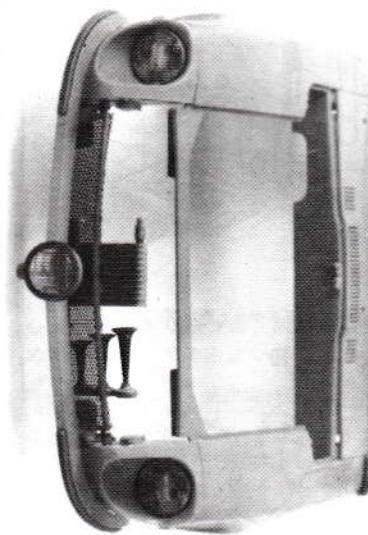


41 リヤフィニッシャーの取付け
組立てられたリアバンパーとともにリヤフィニッシャーを取付けて下さい。ナンバープレートはあらかじめ塗装しておいて下さい。



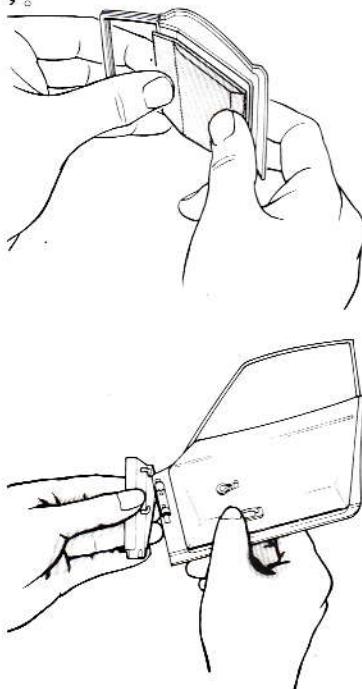
42 フロントグリルの組立て

ヘッドライトや、サイドウインカー等の透明部品は、接着剤で疊ります。接着剤は、ふちに少しだけつけて、組立てて下さい。

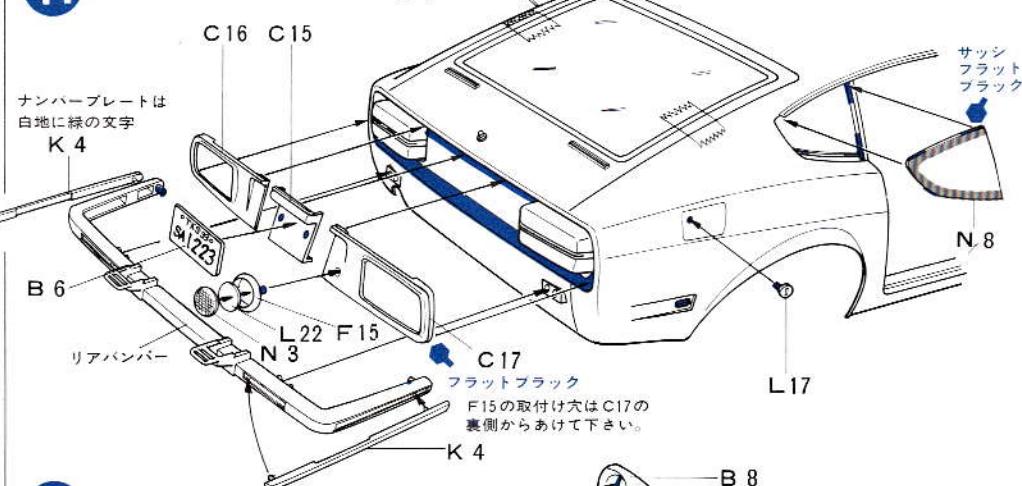


43 ドアの組立て

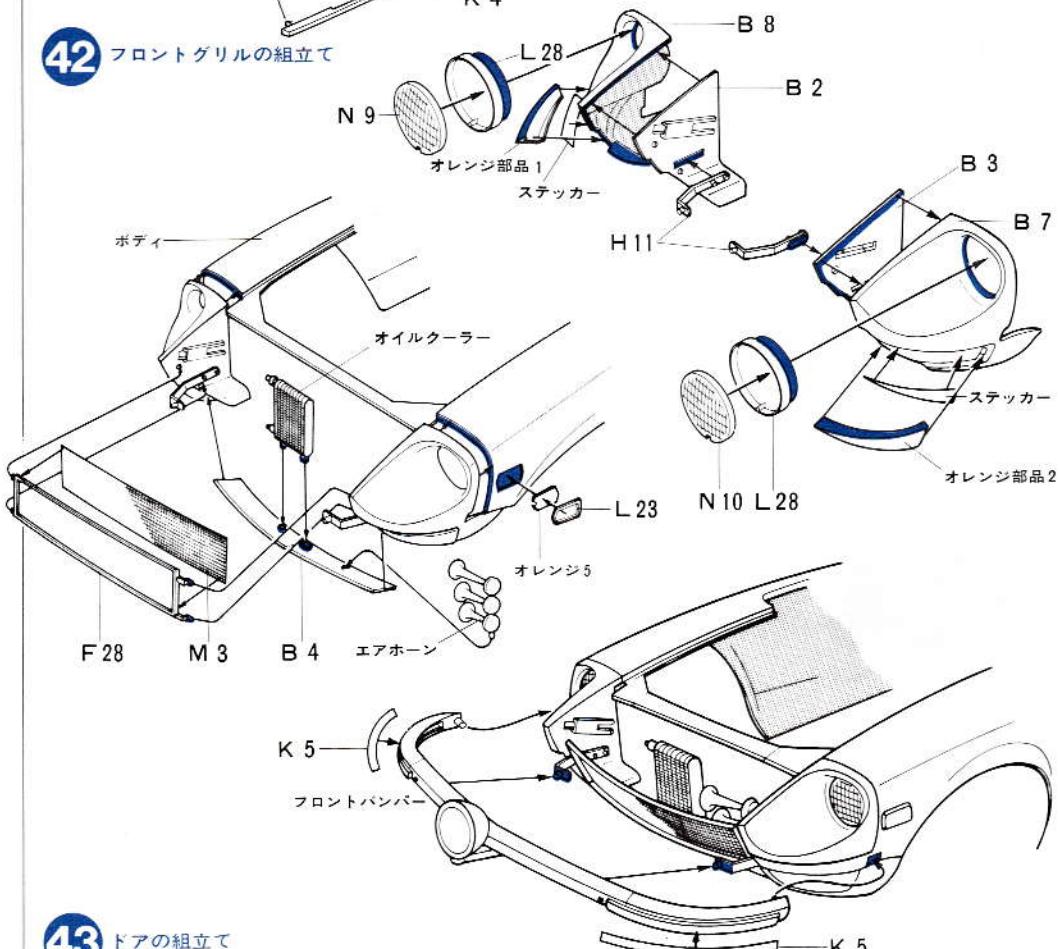
ドアに組立てられるパネルJ 2・J 3は接着剤がききません。各部品は押し込んで組立てて下さい。ドアガラスは、ふちに少しだけ接着剤をつけ組立てます。



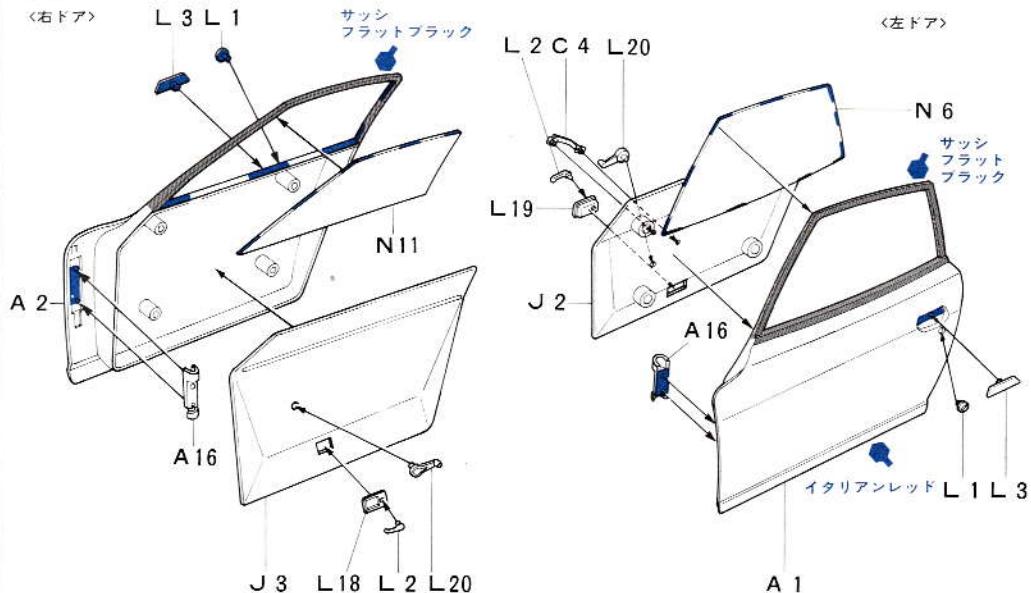
41 リヤフィニッシャーの取付け



42 フロントグリルの組立て



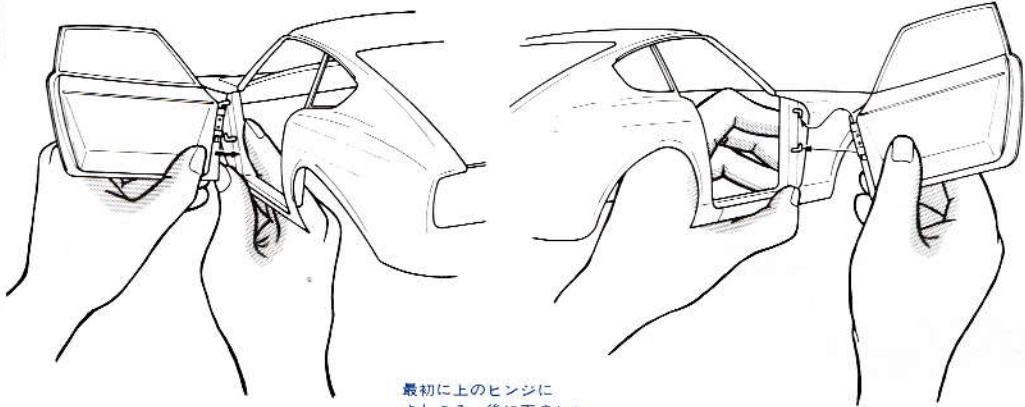
43 ドアの組立て



44 ドアの取付け

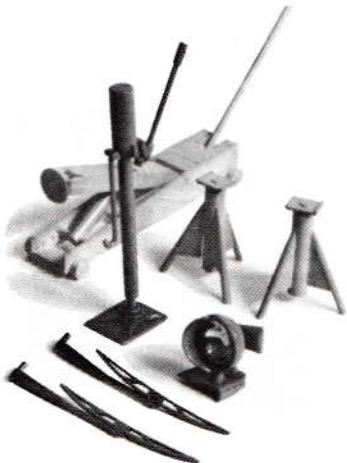


44 ドアの取付け

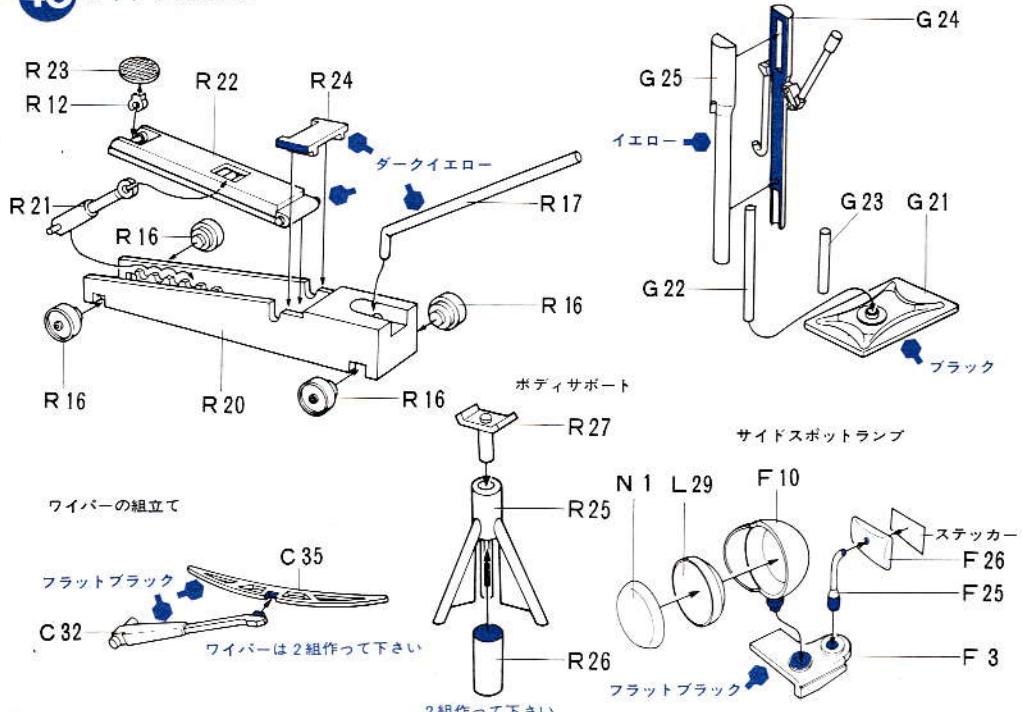


最初に上のヒンジに
さしこみ、後に下のヒン
ジを押しこんで下さい。

45 付属品の組立て



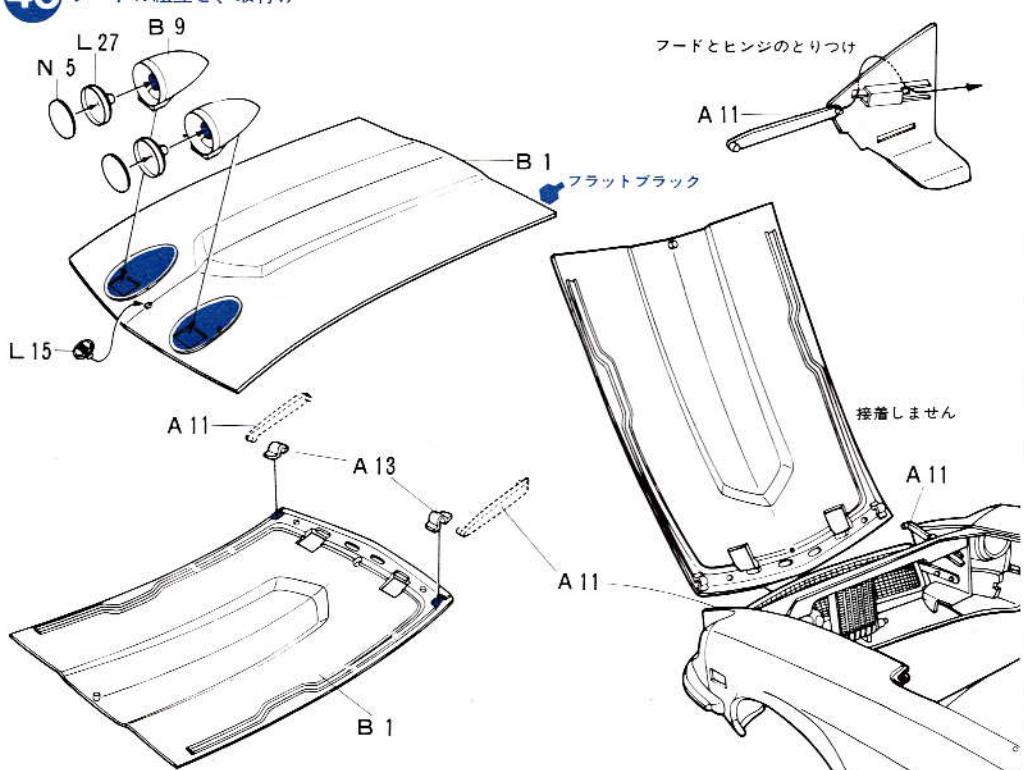
45 ジャッキの組立て



46 フードの組立と取付け

フードは、フォグランプを取付けた後
にボディーに取付けますが、ヒンジは
少し開き気味にしてはめこんで下さい。
接着しません。

46 フードの組立と、取付け



PAINTING

(アクセントをつける)

ホイールのボルトや、ディスクのよご
れ等、細筆を使ってアクセントをつけて
下さい。いっそうひきたちます。



穂先の長い
細くて

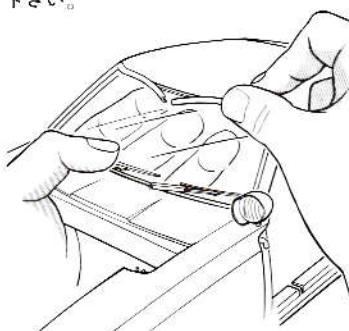
細かい部分に
少しでもアクセントをつけて下さい。

47 ボディーの取付け

シャシー後部の2つの凸をボディ後部に合せてから、ボディー前を合せます。ボリキャップで止めて下さい。

**48** スノーラジアルタイヤの取付け

タイヤは、取付ビスM 4によってアクスルに止めますが、この時、ビスはアクスルの中にねじこんで下さい。ウェザーストリップ等の取付も行って下さい。



ウェザーストリップは、内側から數カ所焼止めをするとよいでしょう。

49 マッドフラップの取付け

マッドフラップはあらかじめ文字を塗装しておいて、取付けて下さい。マッドフラップ取付後に人形をのせて、完成です。

TAMIYA CRAFT TOOLS

良い工具選びは傑作づくりのための第一歩。本格派をめざすモデルerにふさわしいタミヤクラフトツール。耐久性も高く、使いやすい高品質な工具です。

(+)SCREWDRIVER·M

プラスドライバーM(4×75)



ITEM 74007

TAMIYA CEMENT**タミヤ瞬間接着剤(低白化タイプ)**

プラスチックはもちろん、金属やメッキパーツ、そしてRCカーのゴムタイヤまでばく強力に接着します。低白化タイプですからきれいな仕上がりが可能。早すぎない硬化時間でパーツの位置決めがしやすいのも特徴です。

万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社アフターサービス係までご連絡下さい。

〒422-8610 静岡市恩田原3-7

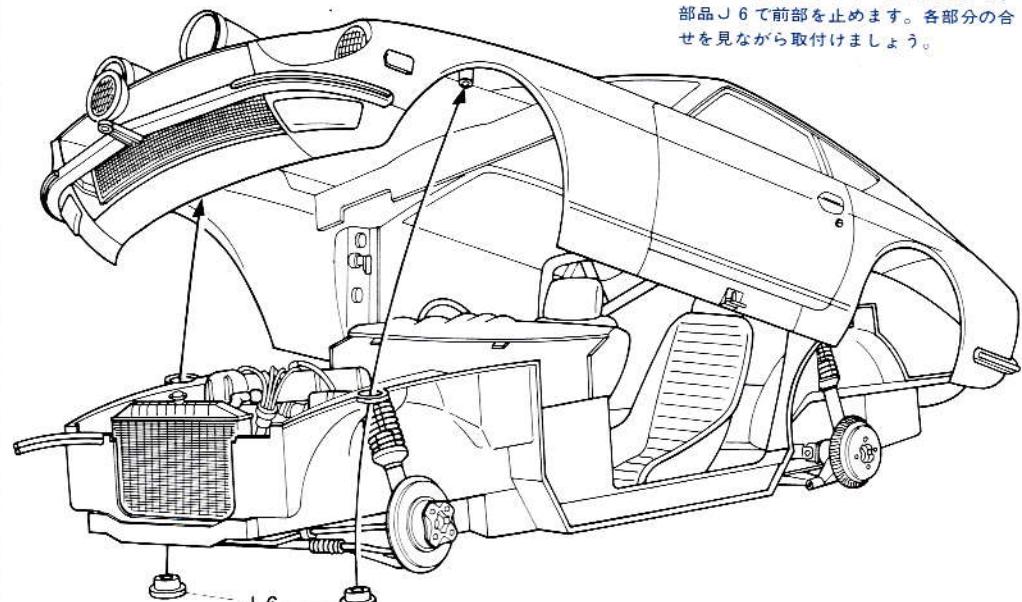
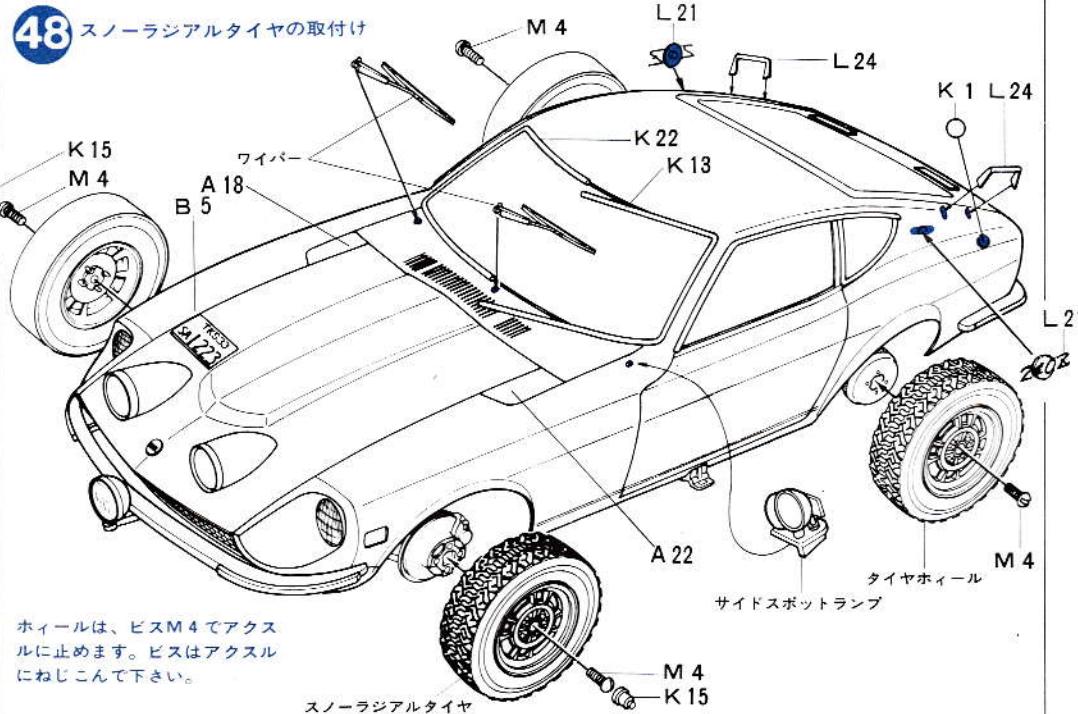
田宮模型アフターサービス係

（お問い合わせ電話番号）03-3899-3765(東京)
054-283-0003(静岡)

田宮模型
静岡市恩田原3-7 〒422-8610

47 ボディーの取付け

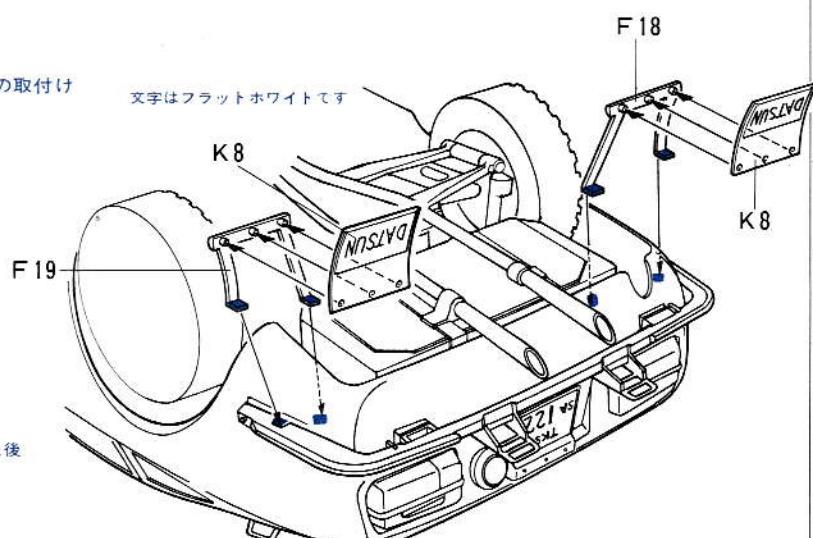
シャシー後部をボディーに合せてから、部品J 6で前部を止めます。各部分の合せを見ながら取付けましょう。

**48** スノーラジアルタイヤの取付け

ホイールは、ビスM 4でアクスルに止めます。ビスはアクスルにねじこんで下さい。

49 マッドフラップの取付け

文字はフラットホワイトです



マッドフラップを取付けた後
人形を乗せて完成です。

PAINTING

APPLYING DECALS

(塗装)

塗料は各部品の色を変えるために塗るのではありません。各部品を塗装することでその部品のもつ形や働きをひきたたせるのです。

モデルの重量感を出すために11種類の色を使いわけてみました。

各塗装の名前は右の行で指示しています。

塗装する前に

各部品の塗装する面のゴミや手の油、ほこり等をやわらかい布でふき落して下さい。中性洗剤で一度洗っておけば安心です。



接着剤のはみだした所などは塗装ではかくせません。カッターナイフや目の細かいサンドペーパーで直しておくこと。ペーティングライン(部品や金具の合せ目)もヤスリをかけて修正して下さい。

部品は組立ててから塗装することがコツです。同じ色の部品は出来るだけ接着して、合せ目を修正してから塗装します。もちろん組立て筆のとどかなくなる部品はあらかじめ塗装しておいて下さい。

塗装用具

筆、ときぎら、ウエス(ボロ布)を用意して下さい。

筆はデザイン用の筆を使います。平筆と細筆を使いますが、共に毛質がやわらかく穂先の長い筆が使い良いでしょう。

塗料を溶かすにはセトモノの皿とか部品の入っている透明なブリーバックを使います。画材店で梅皿を買っておいても良いでしょう。

塗装がすんだ後、筆はラッカーシンナーで塗料を落とし水洗してから保存します。

溶剤は少なめに使用するのがコツです。広い面積を筆塗りする時はたて、よこに平均に塗って下さい。

塗料は火気に十分注意して下さい。

レーシングカラー

塗装には、スケールモデル専用筆塗りタミカラーエナメル塗料とスプレーカラーのタミヤカラーが便利です。

使用的する塗料の色

X-1(ブラック)

つや有りの黒です。金属的な感じをだす黒色部品に塗装します。

X-11(クロームシルバー)

輝きのある銀色です。メッキの補修やボルトナット等に塗ります。

X-11:1+XF-16:1(シルバー)

ややツヤ消の銀色です。金属色でも地表面の荒い面に使用します。

XF-56(メタリックグレー)

鉄色です。いもの表面等の金属部分に使用して下さい。

X-8(ブルー)

青色です。オイルフィルターに塗装して下さい。

X-8(イエロー)

黄色です。ジャッキやタイヤストッパーに塗装します。

(アイボリーホワイト)

やや黄色味をおびた白色です。Tシャツに塗って下さい。

XF-15(フレッシュ)

緑色です。顔の明暗をつけるにはこの色に茶色等ませて下さい。

X-7(イタリアンレッド)

タミヤのタミヤカラーで発光されているあざやかな赤色です。

XF-1(フラットブラック)

つや消しの黒です。タミヤカラーの中にはそろっています。

X-2(ホワイト)

白です。タイヤ、マッドフラップの文字等を塗装して下さい。

20cmぐらい放して吹付けます。

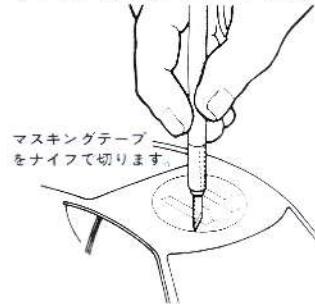
スプレー缶を同じ方向にすばやく動かして、シェッショツを吹付けて下さい。塗装するボディよりも回り大きなボディを吹かける気持で塗装するのがコツです。



塗料がよくまとまるように3分間上下にふります。

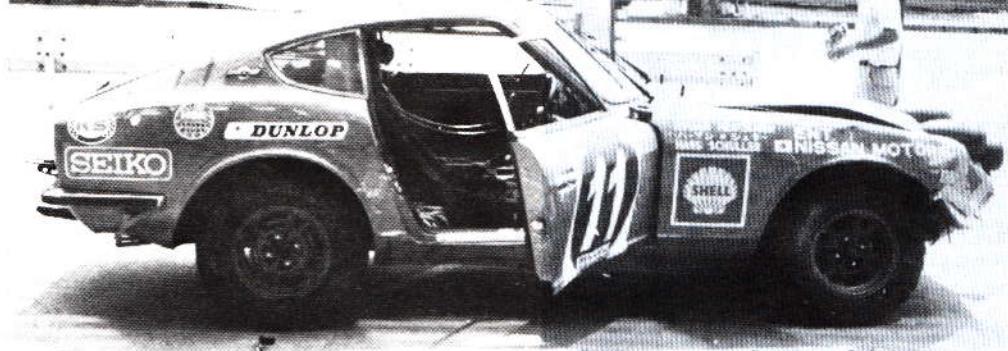
マスキングのしかた

ボディ全体の塗料がよく乾いてからマスキングテープをボディの端から順序よくはります。2H程度の鉛筆を使い自由な形をマスキングテープに下書きして下さい。下書きの線にそってデザインナイフで切り込みを入れます。テープをはがした後はよくおさえこんでおくこと。テープのふちが十分に密着しているのを確かめてから《エアゾールスプレーの使い方》と同じ方法で塗装します。すばやく、うすく、2回塗りをして下さい。



エアゾールスプレーの使い方

新聞紙、ボール箱、部品の入っていたビニール袋、ポロ布、セロテープ等用意して下さい。風のない日陰で新聞紙を用意してはこりの立たないようにしてから塗装します。スプレー缶を上下によく振って缶の中の塗料をかきませてから塗料の混ざり具合を見るためになめし吹きして下さい。ためし吹きは、不用のボール紙やお菓子の箱などを使い、塗装するボディから



(塗料・溶剤を使用するときの注意)

プラスチックの表面は、塗料が着きにくい性質をもっています。静電気等で付着したホコリや手の油等もよく除いておくことが大切です。

細筆

平筆

《スライドマークのはりかた》

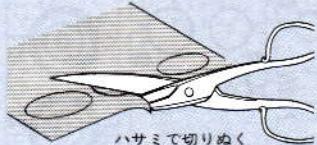
スライドマークを貼る位置についてはP19の二面図に指示してあります。が正確な位置は組立図中にありますので参照して下さい。

1-(マークをはる前に)

スライドマークを貼る所のはこりや油気を水でぬらした布で良くふきとって下さい。

2-(マークを切りはなす)

はりたいマークをハサミで切りとり、必ずニス(透明な)部分をきれいに切りとります。

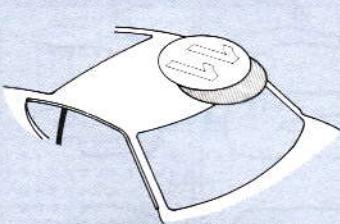


3-(マークを水にひたす。)

マークの台紙が弓状にまがった所で水からひき上げタオル等の布の上におきます。

4-(マークをはる)

1~2分してから紙のはしを手で持ち、マークをスライドさせて、モデルに移して下さい。



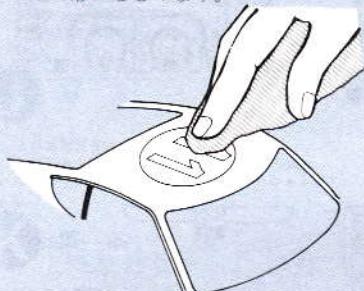
5-(マークを正しい位置に移す)

指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置に移します。

6-(布で水分をとる)

タオル等のやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして余分な水分をとります。

マークをはる場所が曲面や凹凸している時は、むしタオルでマークをおさえて下さい。マークがモデルの形になじみます。



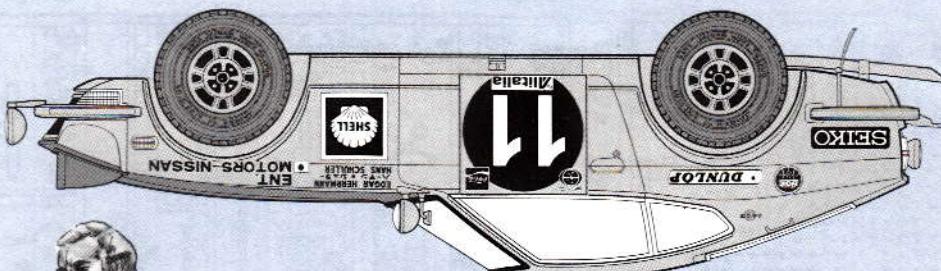
メタ・ダウディー組のナンバープレートは、SA1224を使用していました。下図のプレートを参考にして下さい。

白地に文字は緑です

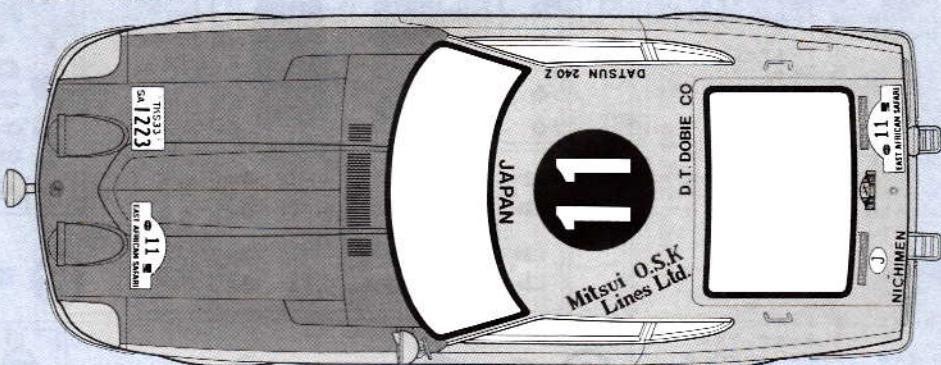


実です。

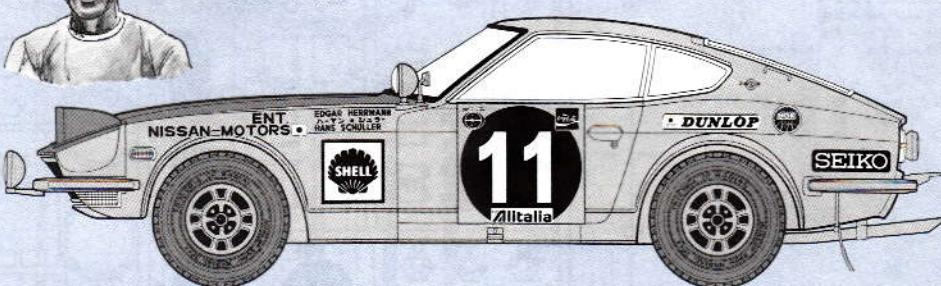
1971年 東アフリカサファリラリー優勝車 ハーマン・シュラー組



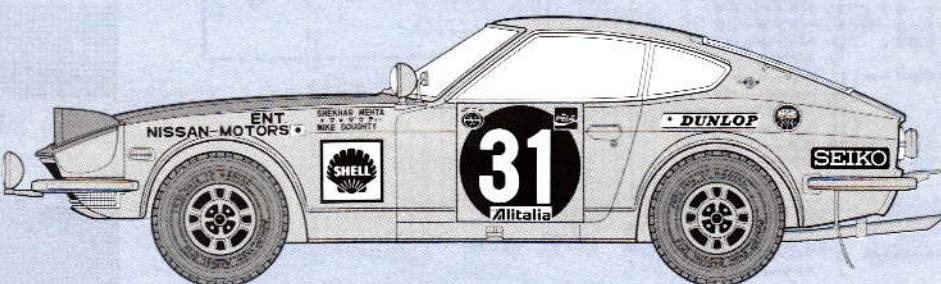
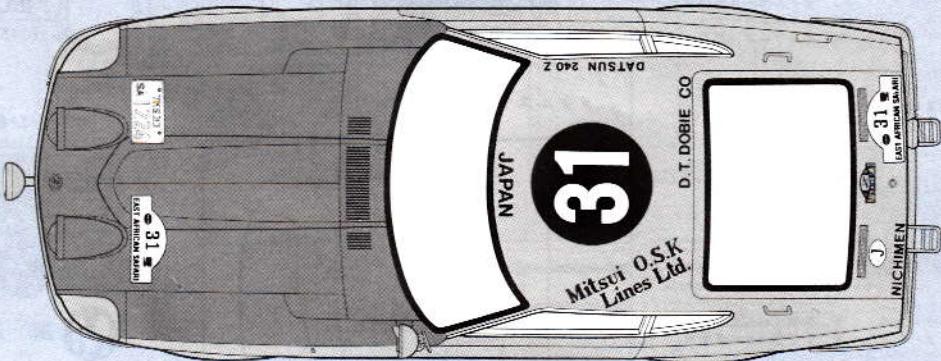
エドガー・ハーマン



ハンス・シュラー



1971年 東アフリカサファリラリー第2位 メタ・ダウディー組

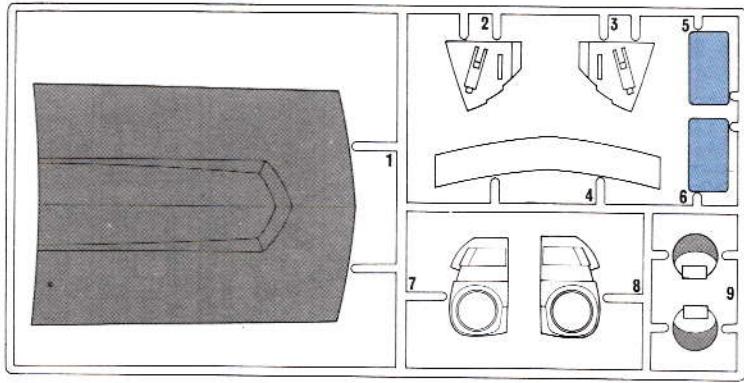


PARTS

B 部品

1. フード
2. ヘッドライト部品右
3. ヘッドライト部品左
4. フロントスカート
5. フロントナンバープレート
6. リアナンバープレート
7. ヘッドライトケース左
8. ヘッドライトケース右
9. スポットランプA

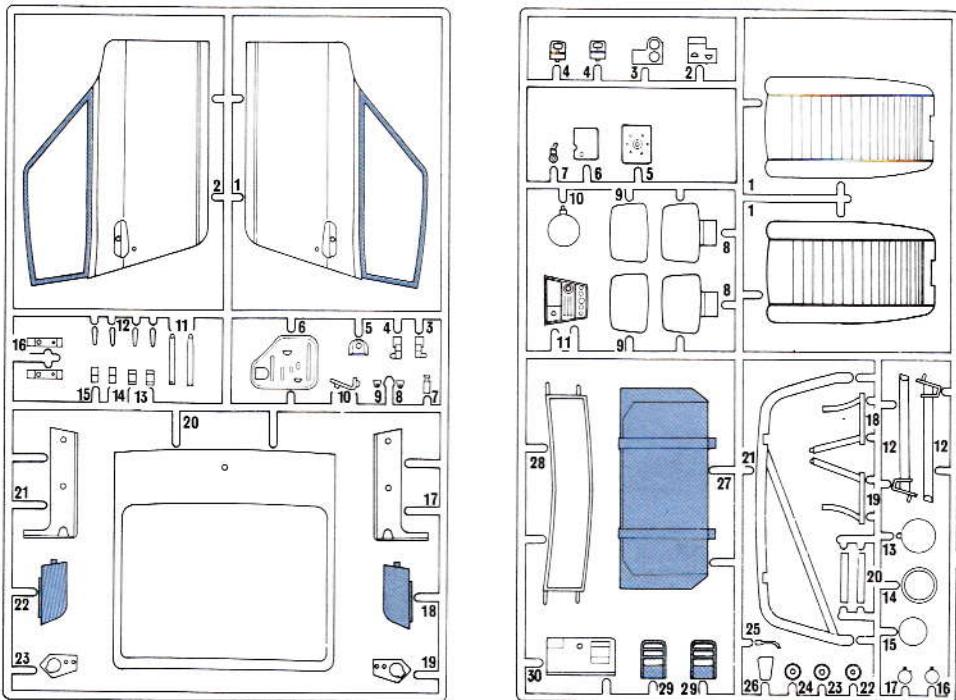
B 部品 イタリアンレッド ブラック ホワイト



A 部品

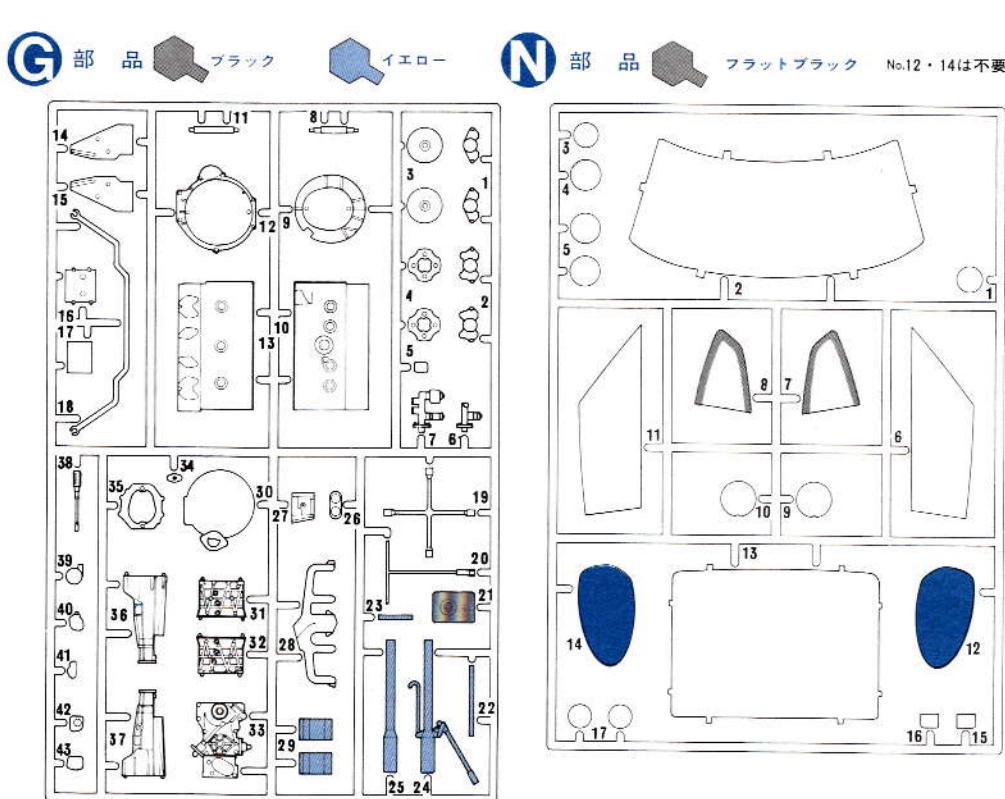
1. ドア左
2. ドア右
3. テールゲートヒンジ右
4. テールゲートヒンジ左
5. ステアリングシャフト受
6. ダッシュパネル
7. テールゲートステー受日
8. テールゲートステー受A 1
9. テールゲートステー受A 2
10. ウォッシャータンク取付具
11. フードヒンジB
12. ドアヒンジB
13. フードヒンジA
14. テールゲートヒンジ受右
15. テールゲートヒンジ受左
16. ドアヒンジA
17. ボディドア部品左
18. インスペクションリッド右
19. コンプレッションロッドサポート右
20. テールゲート
21. ボディドア部品右
22. インスペクションリッド左
23. コンプレッションロッドサポート左

A 部品 イタリアンレッド ブラック ブラック



F 部品

1. シート
2. モンテカルロウォッチャステー
3. サイドスポットランプ取付具
4. ジャッキングポイント
5. オイルキャッチタンクA
6. オイルキャッチタンクB
7. ウータージョイント
8. ヘッドライトB
9. ヘッドライトA
10. サイドスポットランプA
11. インストルメントパネルC
12. ロールバーB
13. フォグラントA
14. フォグラントB
15. リアフォグランプA
16. モンテカルロタイマーB
17. モンテカルロタイマーA
18. マッドフラップステー左
19. マッドフラップステー右
20. エアアウトレット
21. ロールバーA
22. エアホーンA
23. エアホーンB
24. エアホーンC
25. フェンダーミラーB
26. フェンダーミラーA
27. ガソリンタンク
28. フロントクリル金網受
29. バンパーステップ
30. グローブボックスリスト



G 部品

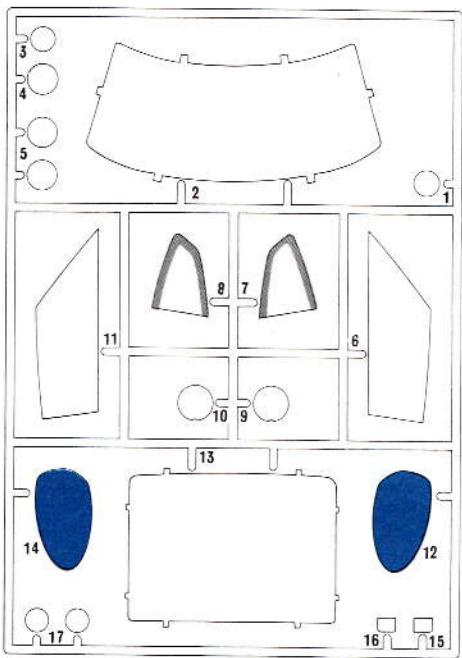
1. キャリパーB
2. キャリパーA
3. リアクスルシャフト
4. フロントハブ
5. ブレーキマスタークリンダ部品
6. クラッチマスタークリンダ
7. ブレーキマスタークリンダ
8. ベダルシャフト
9. クラッチハウジングB
10. シリンダーハブ
11. ベダルストッパー
12. クラッチハウジングA
13. シリンダーハブ
14. ベダル止メ具A右
15. ベダル止メ具A左
16. ベダル止メ具B
17. ベダル止メ具C
18. スタビライザー
19. ナンバーレンチ
20. ブラケレンチ
21. 油圧ジャッキC
22. 油圧ジャッキシャフトB
23. 油圧ジャッキシャフトA
24. 油圧ジャッキA
25. 油圧ジャッキB
26. エキソーストマニホールドジョイント
27. シリンダーハブカバー
28. エキソーストマニホールド
29. タイヤストッパー
30. ミッションアダプター
31. ミッションA左
32. ミッションA右
33. フロントカバー
34. ディストリビューターC
35. ミッションB
36. ミッションC左
37. ミッションC右
38. マイナストライバー
39. ディストリビューターB
40. ウォーターアウトレットA
41. ウォーターアウトレットB
42. オイルポンプA
43. オイルポンプB

G 部品 ブラック イエロー

N 部品

1. サイドスポットランプレンズ
2. フロントガラス
3. リアフォグランプレンズ
4. フォグラントレンズC
5. スポットライトレンズ
6. ドアガラス左
7. サイドガラス左
8. サイドガラス右
9. ヘッドライトレンズ左
10. ヘッドライトレンズ右
11. ドアガラス右
- 12.
13. テールゲートガラス
- 14.
15. テールランプC左
16. テールランプC右
17. メーターガラス

N 部品 ブラック フラットブラック No.12・14は不要

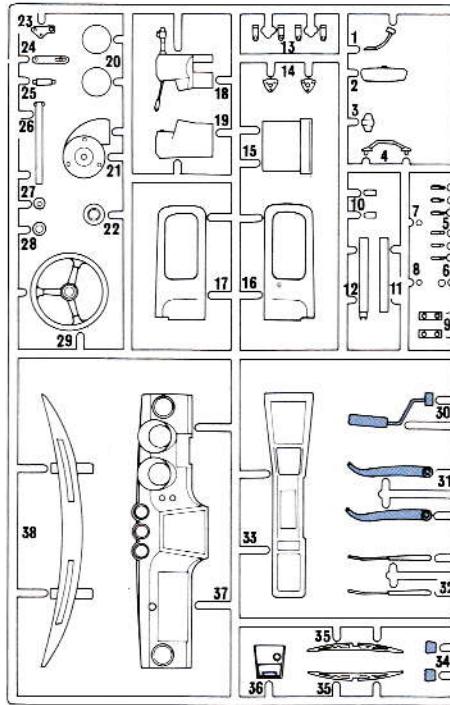


PARTS

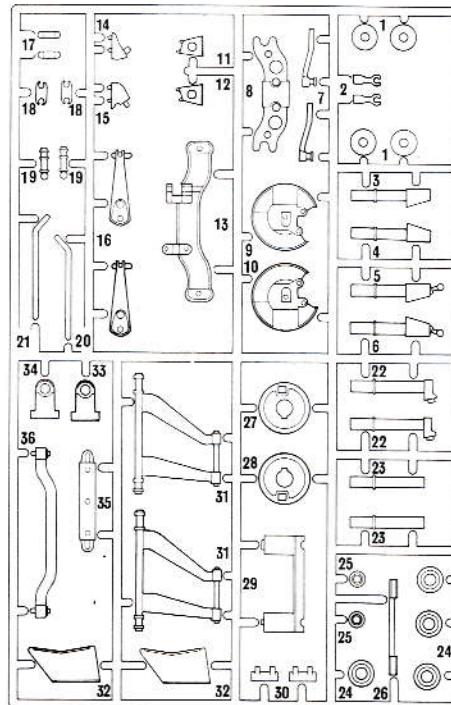
C 部品

1. ルームミラー支柱
2. ルームミラー
3. ルームミラーアクセサリ
4. アシストストラップ
5. スイッチノブ
6. ベンチレーターースイッチ
7. シガーライター
8. ライトスイッチノブ
9. リアバンパーステー
10. フロアマット止部品
11. テールゲートステーバイブA
12. テールゲートステーバイブB
13. フック
14. サンバイザー止部品
15. リアパネルA
16. リアパネルB左
17. リアパネルB右
18. ステアリングコラムカバー上
19. ステアリングコラムカバー下
20. メーター部品
21. ファンユニット
22. ダイナモアンクルA
23. ダイナモアンクルB
24. ステアリングシャフトA
25. ステアリングシャフトB
26. ステアリングジョイント
27. ステアリングジョイント
28. ステアリングジョイント
29. ステアリングホイール
30. ワイバーアーム
31. ベルアーム
32. ベル
33. コンソール
34. ウィバーフレード
35. 灰皿
36. インストルメントパネルA
37. インストルメントパネルB

C 部品 ブラック



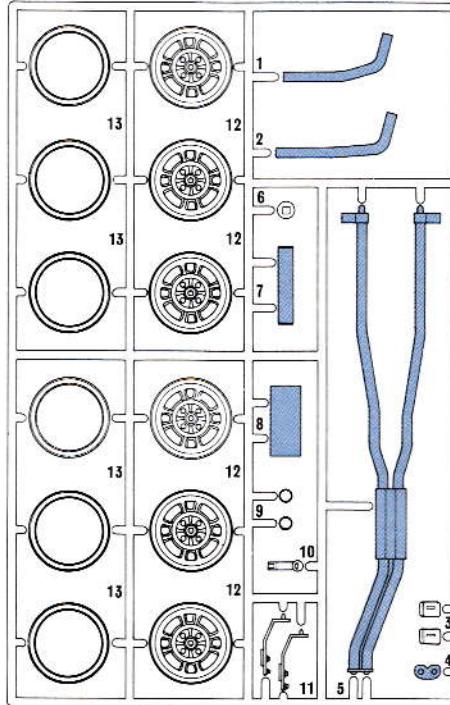
E 部品 ブラック



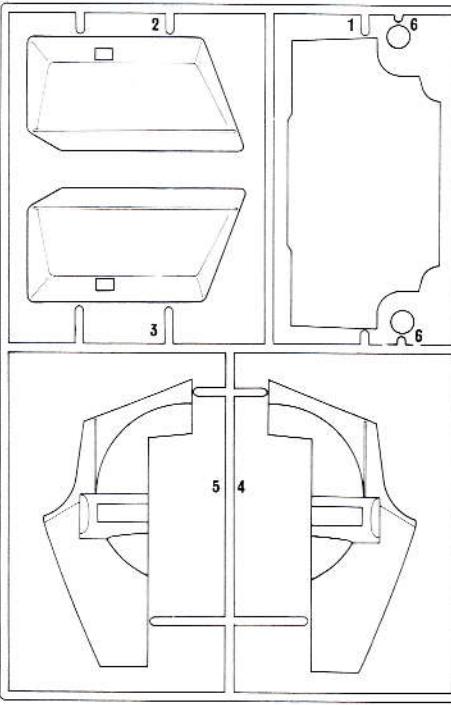
E 部品

1. ストラットスプリングシートB
2. ステアリングクロッド受
3. フロントストラットA
4. フロントストラットC
5. フロントストラットD
6. フロントストラットB
7. ステアリングキヤサイドロッド
8. フロントサスペンションメンバーA
9. フロントアクスル左
10. フロントアクスル右
11. エンジンマウントA右
12. エンジンマウントA左
13. フロントサスペンションメンバーB
14. エンジンマウントB右
15. エンジンマウントB左
16. フロントトランスマウント
17. スタビライザーサポート
18. ホールシート
19. コネクティングロッド
20. コンプレッショントロット右
21. コンプレッショントロット左
22. リアストラットB
23. リアストラットA
24. ストラットスプリングシートA
25. リアストラット部品
26. リンクマウントフラケット
27. リアフレーキディスク左
28. リアフレーキディスク右
29. リンクマウントメンバー
30. リアアクスル部品
31. リアトランスマウント
32. リアトランスマウント部品
33. リアアクスル左
34. リアアクスル右
35. テフマウントメンバーA
36. テフマウントメンバーB

H 部品 メタリックグレー・レッド



J 部品



H 部品

1. エキゾーストパイプC
2. エキゾーストパイプロ
3. トリップメーター
4. エキゾーストパイプジョイント
5. エキゾーストパイプB
6. ドライブシャフト部品
7. マフラーカード
8. マフラー
9. エキゾーストパイプA
10. フォグランプ取付具
11. フロントバンパーステー
12. ホイールA
13. ホイールB

J 部品

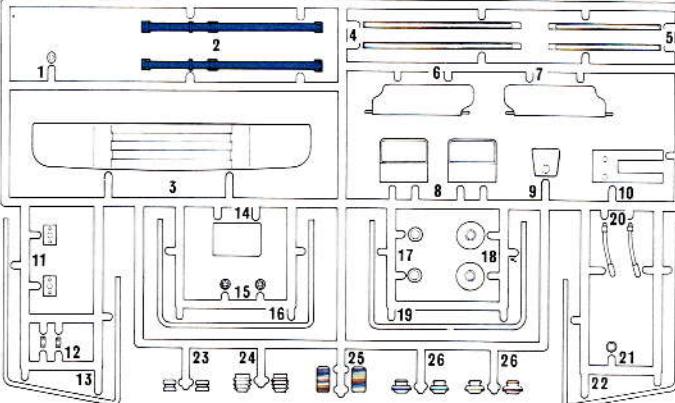
1. リアフロアマット
2. トアパネル左
3. ドアパネル右
4. リアサイトトリム右
5. リアサイトトリム左
6. ボディ止めキャップ

K 部品

1. アンテナ部品
2. 不要部品
3. リアパネルトリム
4. リアバンパーラバー
5. フロントバンパーラバー
6. サンバイザー右
7. サンバイザー左
8. マットフラップ
9. シフトレバーパーツ
10. ベルスプリング
11. エンジンマウンティングラバー
12. ステアリングジョイントスパイダー
13. フロントウェザーストリップ左
14. バッテリーカバー
15. クリースキャップ
16. リアウェザーストリップ右
17. ディスクストッパー
18. リアストラッカッパー
19. リアウェザーストリップ左
20. コックピットランプ
21. ステアリングシャフト止
22. フロントウェザーストリップ右
23. コンプレッショントロットラバー
24. ジャッキA部品
25. ボディーサポートA
26. ボディーサポートB
27. ボディーサポートC

K 部品

No.2は不要

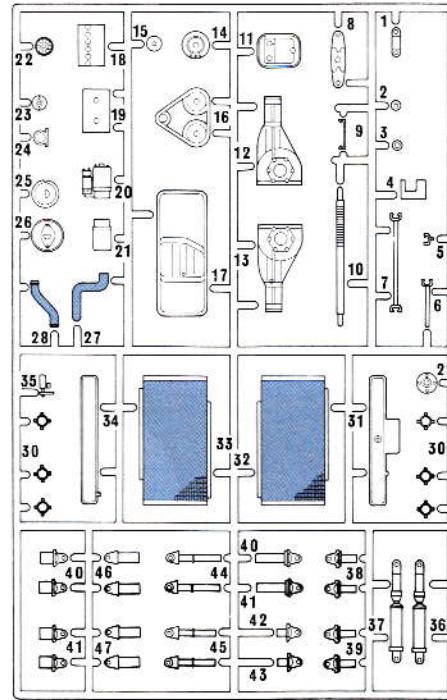


PARTS

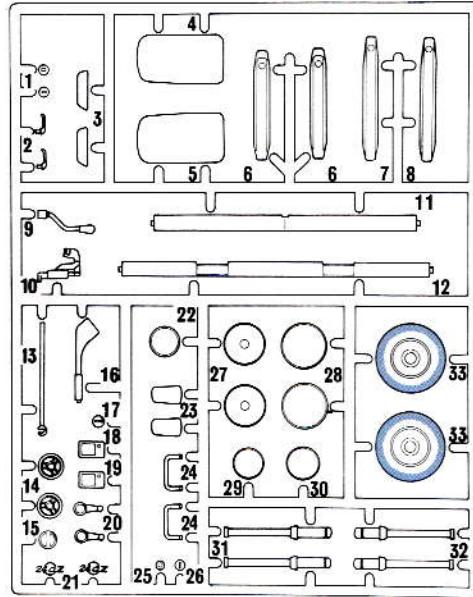
D 部品

1. ステアリングギアプラケットA
2. ステアリングクロアジョイントB
3. ビニオンギア
4. ステアリングギアプラケットB
5. ステアリングクロアジョイントA
6. ステアリングクロアシャフトB
7. ステアリングクロアシャフトA
8. ミッションマウントメンバーA
9. ミッションマウントメンバーB
10. ステアリングギア
11. テフキアケース後
12. テフキアケース左
13. テフキアケース右
14. ブーリーB
15. ブーリーC
16. ファンベルト
17. オイルパン
18. パッテリー
19. パッテリーケース
20. スターターモーターA
21. スターターモーターB
22. ティストリビューター
23. イグニッションコイルA
24. イグニッションコイルB
25. マスター・パックA
26. マスター・パックB
27. ラジエターバイブA
28. ラジエターバイブB
29. プロペラシャフトジョイント
30. スハイド
31. ラジエターカ
32. ラジエターア
33. ラジエターバ
34. ラジエタード
35. クラッチレリーズシリンダー
36. プロペラシャフトA
37. プロペラシャフトB
38. ドライブシャフトA
39. ドライブシャフトB
40. プロペラシャフトC
41. プロペラシャフトD
42. プロペラシャフトE
43. プロペラシャフトF
44. ドライブシャフトC
45. ドライブシャフトD
46. ドライブシャフトE
47. ドライブシャフトF
48. ドライブシャフトG
49. ドライブシャフトH

D 部品 グロスブラック ブラック



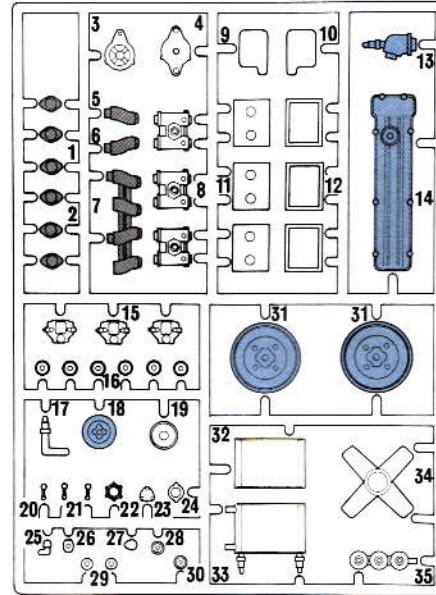
L 部品 クロームシルバー



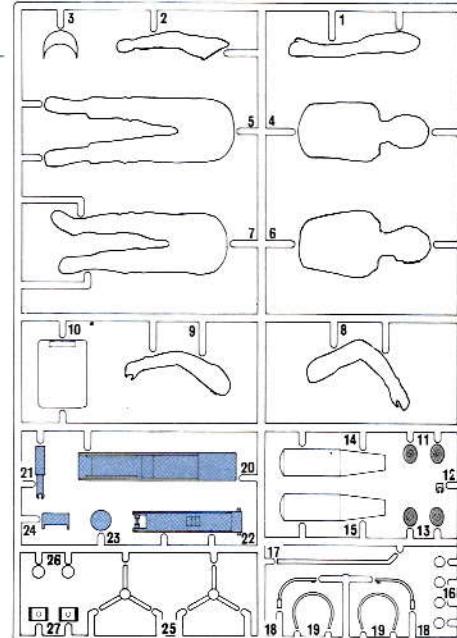
L 部品

1. ドアロック穴
2. ドアインナーノブ
3. ドアノブ
4. テールランプA左
5. テールランプA右
6. フロントバンパーB
7. リアバンパーB左
8. リアバンパーB右
9. シフトレバーA
10. シフトレバーB
11. フロントバンパーA
12. リアバンパーA
13. テールゲートステッロッド
14. サイドベンチレーター
15. フードエンブレム
16. サイドフレーキハンドル
17. フューエルキー・シリンダー
18. ドアインナーノブケース左
19. ドアインナーノブケース右
20. ウィンドウハンドル
21. サイドエンブレム
22. リアフォグラム
23. サイドフラッシュランプ
24. ローテイククリップ
25. テールゲートキー穴
26. スタータースイッチ
27. スポットランプB
28. ヘッドライト
29. サンドスポットB
30. フォクランプD
31. リアストラットピストン
32. フロントストラットピストン
33. ディスク

Q 部品 クロームシルバー メタリッククリー



R 部品 フラット ブラック イエロー



No.14・15は不要

Q 部品

1. キャブレターC右
2. キャブレターC左
3. ダイナモA
4. ダイナモB
5. インテークマニホールドC
6. インテークマニホールドB
7. インテークマニホールドA
8. キャブレターA
9. ウォッシャータンクA
10. ウォッシャータンクB
11. エアクリーナーA
12. エアクリーナーB
13. オイルクリーナー取付具
14. ロッカーカバー
15. キャブレターB
16. スパークプラグ
17. オイルホース取付口
18. ブーリーA
19. オイルクリーナー
20. キャブレター部品B
21. キャブレター部品A
22. オイルキャップ
23. フューエルポンプカバー
24. ラジエターキャップ
25. ブリーザーバイブロ
26. クラッチマスク・シリンドリキャップ
27. ウォッシャータンクキャップ
28. ダイアフラム
29. マスターシリンダキャップ
30. 水温計
31. ブレーキドラム
32. オイルクーラーB
33. オイルクーラーA
34. 冷却ファン
35. エアホーンD

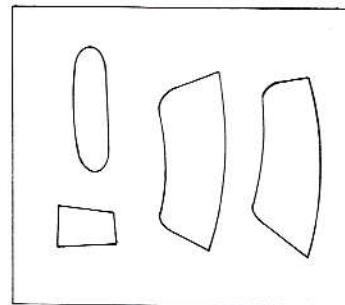
R 部品

1. ナビゲーター右手
2. ドライバー左手
3. ナビゲーターひさし
4. ナビゲーター上半身
5. ナビゲーター下半身
6. ドライバー上半身
7. ドライバー下半身
8. ナビゲーター左手
9. ナビゲーターボード
10. ナビゲーター部品
11. ジャッキB部品2
12. ジャッキB部品1
13. 不要部品
14. 不要部品
15. 不要部品
16. ジャッキ用ホイール
17. ジャッキハンドル
18. マイク
19. ヘッドホーンサポート
20. ジャッキA
21. ジャッキ用シリンドラー
22. ジャッキB
23. ジャッキB部品1
24. ジャッキA部品
25. ボディーサポートA
26. ボディーサポートB
27. ボディーサポートC

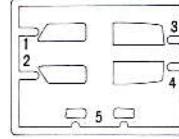
M 部品

1. エアクリーナー用金網
2. 2mmビス
3. フロントグリル用金網
4. ストラット用スプリング

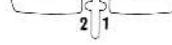
メタルステッカー



オレンジ部品



赤部品



M 部品

